

対象番組：NEWS23(TBS)

対象期間：9/17～9/21

・ 9/17(月)

自民党総裁選、南北朝鮮、海自潜水艦が南シナ海で初訓練などについて報じられました。これらのトピックについて放送法第四条の観点から検証を行いましたところ、特に問題は見られませんでした。なお、自民党総裁選については他の放送日との比較が必要なものだと考えられます。また、自民党総裁選については検証者の所感を記しました。

・ 9/18(火)

南北首脳会談、米中貿易戦争、自民党総裁選、中東シナイ半島へ自衛隊の派遣検討などについて報じられました。これらのトピックについて放送法第四条の観点から検証を行いましたところ、特に問題は見られませんでした。なお、自民党総裁選については他の放送日との比較が必要なものだと考えられます。また、自民党総裁選については検証者の所感を記しました。

・ 9/19(水)

南北首脳会談と米朝関係、自民党総裁選、苫東厚真火力発電所再稼働などについて報じられました。これらのトピックについて放送法第四条の観点から検証を行いましたところ、自民党総裁選については一部問題のある部分が見られましたが全体としての検証には他の放送日との比較が必要なものだと考えられます。また、自民党総裁選については検証者の所感を記しました。

・ 9/20(木)

自民党総裁選、文科省不祥事、南北朝鮮、杉田論文、北海道地震と電力、イギリスと EU などについて報じられました。などについて報じられました。これらのトピックについて放送法第四条の観点から検証を行いましたところ、特に問題は見られませんでした。なお、自民党総裁選については他の放送日との比較が必要なものだと考えられます。また、自民党総裁選、南北朝鮮、杉田論文の報道については検証者の所感を記しました。

・ 9/21(金)

杉田論文、自民党総裁選、文科省不祥事、南北朝鮮、両陛下の被災地訪問などについて報じられました。これらのトピックについて放送法第四条の観点から検証を行いましたところ、杉田論文の報じ方については一部問題が見られました。なお、自民党総裁選については他の放送日との比較が必要なものだと考えられます。また、自民党総裁選については検証者の所感を記しました。

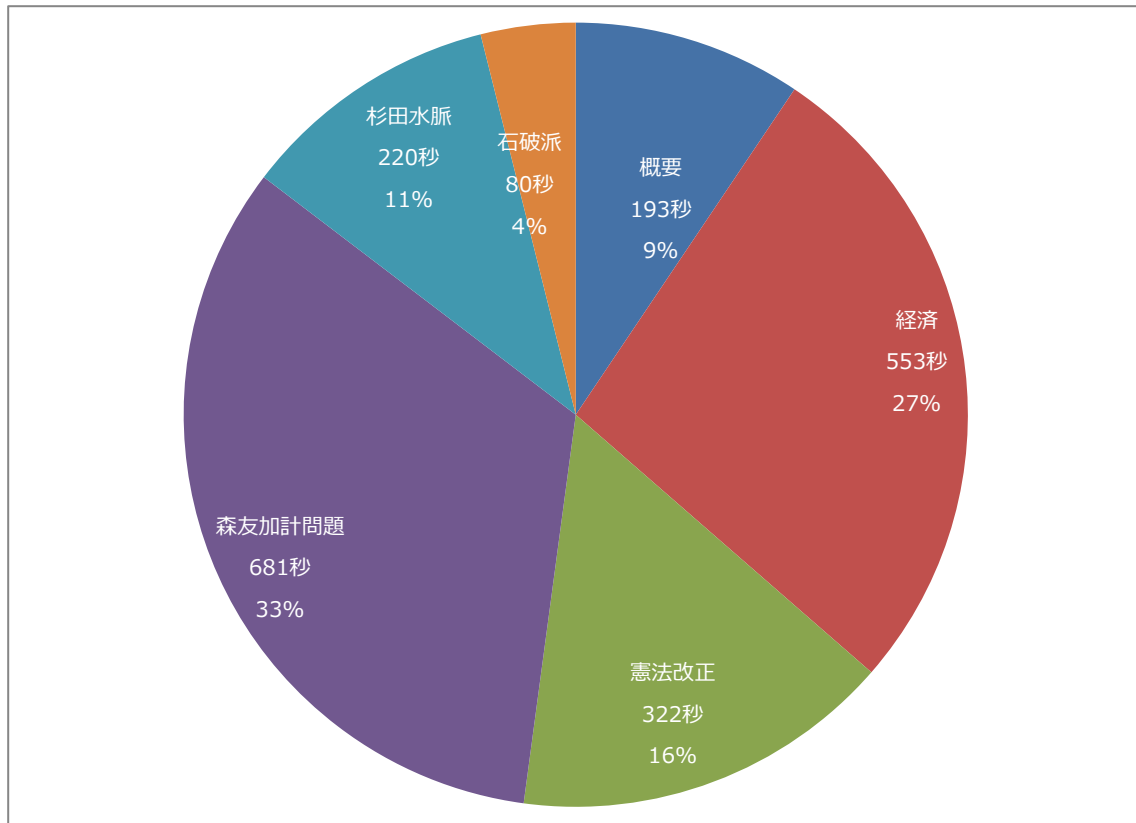
※検証の詳細は次ページ以降の「詳細版」に掲載されている各放送日の報告書をご覧ください

放送法遵守を求める視聴者の会

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年9月17日												
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙														
検証テーマ：自民党総裁選、南北朝鮮、海自潜水艦が南シナ海で初訓練														
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自民党総裁選 ・一週間ぶり真夏日から一転シタ方は大雨 ・南北朝鮮 ・スポーツ報道 ・23Today <ul style="list-style-type: none"> 自民党総裁選 南北朝鮮 海自潜水艦が南シナ海で初訓練 神戸市灘区、電動車いす男性が踏切内で電車にはねられ死亡 東京六本木で殺害の容疑でタクシー運転手を送検 ・天気予報 														
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨														
<ul style="list-style-type: none"> ・自民党総裁選：結論→他の放送日との比較及び総合的検討が必要 総裁選の直接討論がスタジオで行われた。 安倍候補の発言している時間および、石破候補の発言している時間、そのどちらでもない時間の配分及び比率は以下の通りだった。なお、討論の導入での VTR の時間は「その他」、スタジオでの議論の際にキャスターや遊佐部長からどちらかの候補に問いかけたり発言を促したりしている部分については問いかけられたり発言を促された候補の時間として集計した。 														
<table border="1"> <caption>討論の発言時間配分</caption> <thead> <tr> <th>候補</th> <th>時間 (秒)</th> <th>比率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安倍</td> <td>1055</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>石破</td> <td>501</td> <td>24%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>533</td> <td>26%</td> </tr> </tbody> </table>			候補	時間 (秒)	比率 (%)	安倍	1055	50%	石破	501	24%	その他	533	26%
候補	時間 (秒)	比率 (%)												
安倍	1055	50%												
石破	501	24%												
その他	533	26%												
また、概要の他に、スタジオでの討論で取り上げられた論点は経済、憲法改正、森友加計問題、杉田水脈衆院														

議員の「LGBTの生産性」問題、石破氏が田中角栄元総理や竹下登元総理を尊敬していることについて、だった。それぞれについて当てられた時間配分及び比率は以下の通りであった。



なお、それぞれの論点ごとに繰り広げられた議論の様子や賛否の比率及び時間配分については以下の通りである

【論点1、経済】

論点の提起として以下に朱記した発言がVTRで取り上げられていた。

ナレ「問われるアベノミクスの成果。」

雨宮塔子「10日の会見で安倍総理が示した安倍政権の六年の成果です。」

ナレ「安倍総理は告示後はじめての演説でアベノミクスの成果を強調しました。」

安倍「生産年齢人口が450万人減少する中においても、経済が12.2%成長した。そして雇用は250万人増え、正規雇用も78万人増えました。北は北海道から南は沖縄まで全て47の都道府県で有効求人倍率が一倍を超えました。」

ナレ「安倍総理は景気回復が地方にも広がっているとし、地方税収が過去最高の40兆円になったとしました。野党側の格差が広がっていると指摘に対してはこう反論。」

安倍「8割台だった生活保護世帯の子どもたちも大学進学率は初めて9割を超え直近で93%にナりました。そして、子どもの相対的貧困率、政権交代後初めてそれが減少に転じ、大幅に改善しました。」

ナレ「数字で示したアベノミクスの実績、果たして国民の実感は」

上記の発言が取り上げられた VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

星浩「いまの VTR にもありましたけど、株価とか雇用、そういう意味では非常に成果が上がっているんですけども、一方でまあ経済ですから光と影の部分があります、こういう数字があるんですね。」

雨宮塔子「こちらです。アベノミクスによる景気回復の実感があるか、ないか。実感が無いと答えた方が 8 割を超えているんですね。」

"

星浩「あの、ちょっといいですか、あの各紙の調査でだいたいこんな数字なんです、それでなんか株を持っている人がこの位の数字に近いという説も会って、その恩恵が今ひとつ広がりがないと、この点いかがですか。」

安倍「あの、今の生活に満足しているか、という調査があるんですね。これ相当多数の世帯で調査をしている数字です。これご承知のように 74.7%、過去最高になっています。一方満足していないという数字は過去最低になっている。ですから数値で我々言うしかないですね。満足度はどうか、って。これはあの、ずっと今の数値については継続的に皆さん計測はしておられませんよね。10 年前、計測しておられませんよね。我々政権取る前計測しておられませんよね。ですから比較が、できないんですが。その中でですね、例えば株価、これが上がった。例えば、株を持っている人しか利益を得ていないのか、といえはそれはそうではなくて、例えば、年金の運用は株式市場で運用していますこれは 53 兆円プラスになりました。140 兆円規模が 53 兆円規模大きくなっていますから、いま年金財政で大変だ、っていう話、あんまりしていませんよね。ですからそういう意味において経済の指標を良くしていくっていうことが大切であって、で、みんな働く場があるかどうか。ですから例えば正規雇用、政権交代前は二人に一人分の正規の雇用しかなかったんですが今は一人の正規、正社員になりたいという人に対して一人分の正規の雇用がある。あと、先程の私の発言は訂正しなければいけないんですが、

雨宮塔子「総理、簡潔に。」

安倍「あの、訂正しなければいけないんですが、生活保護世帯の高校進学率、アレは高校進学率が 8 割台だったのが 9 割を初めて超えた、大学進学率はひとり親家庭の皆さんの大学進学率が 24% から 42% になったということですよ。」

石破「ですから、有効求人倍率が全部 1 を超えた。でも給料が上がらないのはなんでなんだろうね、っていうことなんだろうねと思います。それは雇用のシフトが起こっているんで、男性から女性の非正規に移っている、製造業からサービス業に移っている、生産年齢人口から高齢者層に移っている。そういう雇用のシフトが起こっているわけですよ。で、シフトしちゃった側のほうが並べて生産性が低い、給料が低い、だから有効求人倍率が全国で 1 を超えても給料が上がらないっていうことが起こるんですね。でもう一つはつい最近のデータですけども全国 24 万社、リーマンショックから 10 年。どうなったんでしょうね。利益は 62% 増えたんです。売上は 2% 減ったんです。売上が 2% 減って利益が 62% 増えたんで、これどういうことなんだ。どこかでコストカットが行われているわけですね。そうでなければこういう数字になりませんのでね。ですから、株が上がった、いいことです。有効求人倍率が上がった、いいことですね。大企業が儲かった、いいことですね。ではそれがこのまま地方や中小企業に行くかって言うと、それは別のメカニズムで動いているからそっちを最大電伸ばしたいと思いませんね。」

星浩「そこでですね、あの、今のやはり景気の中では消費が今ひとつ勢いがいい、特に若い人の話を聞くとやっ

ぱりその将来不安っていいですかね、社会保障大丈夫かな、とか、それから国がまあ 1000 兆円の借金があるもんですから誰かが払わなくちゃいけないということになると、将来不安について社会保障も含めてですが。」

星「安倍総理はどういうふうを考えて」

"安倍「ちょっと今の認識は間違いがあるので申し上げておきますと、働き盛りの世代についてはですね、非正規から正規に移るの方が正規から非正規に移る方、逆転しました。ですから、それは違うんです。しかし、高齢者増えていますから、退職した方は継続使用で非正規になるという人は増えていますよ、でも働き盛りはそうではない。それが実際問題としてもですね、正社員の有効求人倍率が増えているんですから、非正規の人が正規に移ろうと思ったってできるんです。例えば富山県や福井県でも正規の有効求人倍率が 1.1617 になっている、これはもちろん史上はじめてのことなんです。すると、これ給料が上がっていないわけではありません。最低賃金 120 円以上上がりましたね。で、今年度はですね 26 円、これ 28 年ぶりの高い水準で上げています。そして中小規模事業者については、この 20 年間で最も高い水準で上がっている。もちろん企業が上げていく収益の伸び率よりまだ低い。これは残念ですよ。でも 10%利益が上がったからって 10%給料上がりませんよね。10%下がったら 10%下げないのと同じことですから、これからもっとしっかり伸びるようにしていきたい。それと今のご質問、」

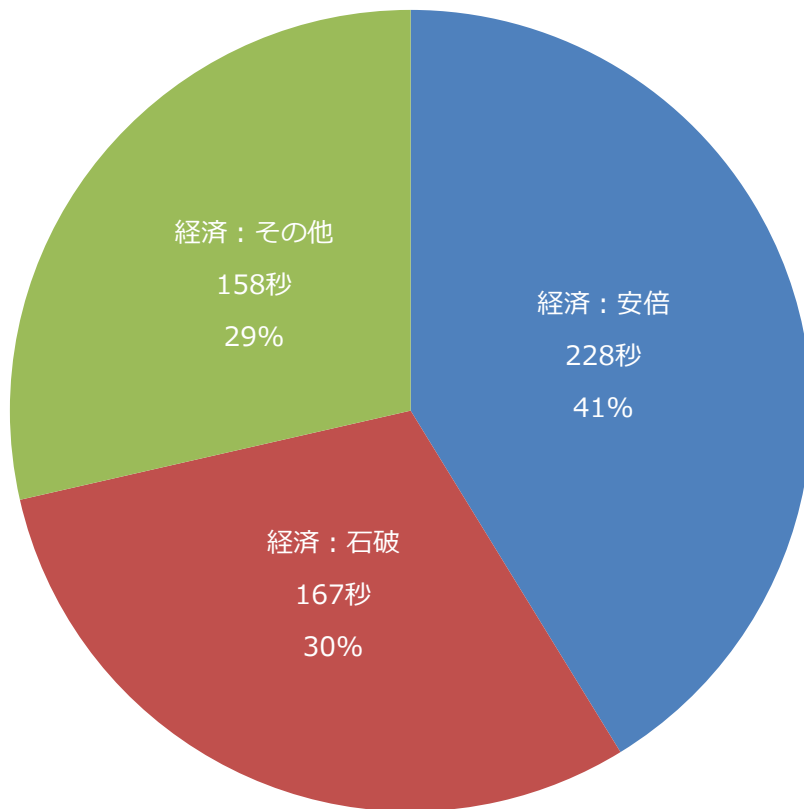
星浩「将来不安ね。ちょっと短くお願いしますか。」

安倍「将来不安についてではですね、財政健全化 PB の目標 25 年にしましたが、しっかりとこれに到達するように、例えば税収もですね過去最高の税収 60 兆円を超えるような状況になってきました。税収を増やし、そして再出もしっかりと適正化を行いながら財政健全化も進めていきたいと考えています。」

星浩「石破さん、その将来不安があるのでね、消費がなかなか伸びてこない、と。このへんはどういうふうにご覧になっていますか。」

石破「それは、これだけ金利が低くてね、貯金が増えているというのは一体どういうことなんだろうね、っていうことを我々真摯に受け止めないといけないと思いますよ。今の 20 代 30 代 40 代の方々が本当にこの国の債務はどうなっていくんだろうか、年金は仕組みのとして破綻しないけれど、貰う額って減っていくんじゃないか、医療や介護っていうのはものすごく増えているわけですよ。西暦 2040 年には社会保障費って 1.6 倍になりますよね、そうなったら本当に医療は承けられるのだろうか、介護は承けられるのだろうか、そういう不安はものすごくあるんです。これは安心ですよということを示していかないと、どうしても手元に現金おいておこう、そういう方々が増えるのはこれはもう自然の成り行きだと思っていますね。ですから、消費税を上げますって言うだけではだめなのであって、社会保障をどうやって変えていきますかっていうのを一緒にやっていかないとこれは手元にお金が残るだけっていうことになってしまう、そうすると経済が回らないということになりますですよ。それは社会保障の改革、合わせてやる必要があります。」

この論点について当てられた時間は 553 秒で、時間配分は以下の通りであった。



【論点2、憲法改正】

スタジオで以下に朱記したやり取りで問題提起がなされた。

星浩「えーと、時間が押してきました、最後憲法の話題をしたいと思うんですが、」

雨宮塔子「こちらをご覧くださいたいのですが。」

星浩「たしかに今回の総裁選では焦点になっていますけれども、その世論調査をするといつもですね憲法のランクが低いんですね。」

雨宮塔子「総理に期待する政策はなんですか」

フリップ（雨宮塔子が示しながら）「年金・医療 23% 景気対策 15% 消費増税と財政再建 13% 子育て支援と教育 12% 外交と安全保障 8% 災害への対応 4% 地方創生 4% 原発・エネルギー政策 4% 憲法改正 4%」

星浩「これはやっぱりエネルギーを注ぎ込んでほしいのはここじゃないと世の中の人とは思ってるんじゃないか、と、そういう意思表示とも見られるんですけどそのへんはどう思いますか。」

こうした問題提起を承けて以下に朱記した論戦が繰り広げられた。

安倍「それは本当にそうなんだろうと思います。自由民主党がですね、60数年前に結党された目的は2つあったんですね、当時の自由党、民主党本当に仲が悪かった、これは星さんご存知のとおりですが、一緒になったのは2つ目的がある、一つはですね占領時代に決められたものを変えていこう、保守同士がいがみ合っているは

できないな、と。そこで憲法とか、教育基本法がそうです。で、二番目の目標、これはですね、当時はまだ貧しかった、やっぱり安定した政治勢力を作ってそして安定的に経済政策を進めて豊かになっていこう、でやっぱりこの二番目の目標をずーっと私は進めてきてかなり達成されてきた、しかし一番目の目標は後回しにされた、デコレは政治的に視座も変わりますよ。私にとってもたくさんリスクが有る。でもやっぱり私は当選当初から憲法改正に取り組んでいくということを申し上げてきた、ハードルは高いですけども既に六年間任期を詰めさせていただいた以上、これに挑戦していきたいと思っています。」

星浩「石破さんはあの、憲法改正の議論はやっぱり野党を巻き込んでやるべきだっていう立場だと思うんですけど、とくにその今野党第一党第二党そのへんとの間合いですね、話し合いをどういうふうに考えているんですか。」

石破「日本国憲法ですからね、国の最高法規ですから、一つでも多くの政党、一つでも一人でも多い方の賛同を得なければいけない。法律とは訳が違いますのでね、ですから私は今当選 11 回ですけど、選挙の時に憲法について語らなかったことは一度もない、必ず語る。国民の皆さん形が日々憲法について関心を持っているはずがないんです、我々がいかにか語るか、なんです、どうせ分かってもらえないや、票にならないや、だったら押し切っちゃおうとかそういうことであってはいけませんので、じゃあ九条に限らずですよ、他にも色々な条文がありますよ、常に選挙の時に、選挙じゃなくてもこちらから語らなければ国民の理解は高まっていけない。どうせわからないからってそういうそんなことをしてはいけません、そういう地道な努力をしつつ、なお国民が早くやってほしいねって言うてる年金とか医療とかそういうものに力を注いでいくそういうものだと思います。」

星浩「ええ安倍さん、最後になりますけど安倍さん、野党第一党第二党との話し合いですね、それがやっぱり必要なのか、それとも仮にその話し合いが整わなくてもやったほうがいいのか、そのへんはどういうふうに考えていますか。」

安倍「それは憲法改正ですか。」

星浩「憲法改正。」

安倍「はい。憲法改正、今石破さんが押し切っているものではないって、これはあの憲法はですね、押しきれません。国会は衆参で三分の二で発議するのであって決めるのは国会ではありません。」

星浩「でも発議をする時に与野党が」

安倍「いや、決めるのはですね国民の皆さんが決めるのですね、これはまさに国民のみなさんが権利を行使する、反対であろうと賛成であろうと行使するわけでありまして。国会は反対であろうと賛成であろうと行使するわけでありまして、国会はこういう案はどうですかっていうことを提供するに過ぎないと私は思っています、で国民の理解を得るためにはまず案を出さないと理解の仕様がありませんよね、もちろん第一党第二党みんなが賛成していただければありがたいんですが第一党の例えば枝野さんはですね、安倍政権の間は憲法を議論しない、とおっしゃっていますよね。それであれば、ああこれはもうしょうがないなという気がしますが、例えば他の党の方はですねだいぶ理解を示していただいている方もありますから、できるだけ多くの方に賛成していただきたいと思っています。」

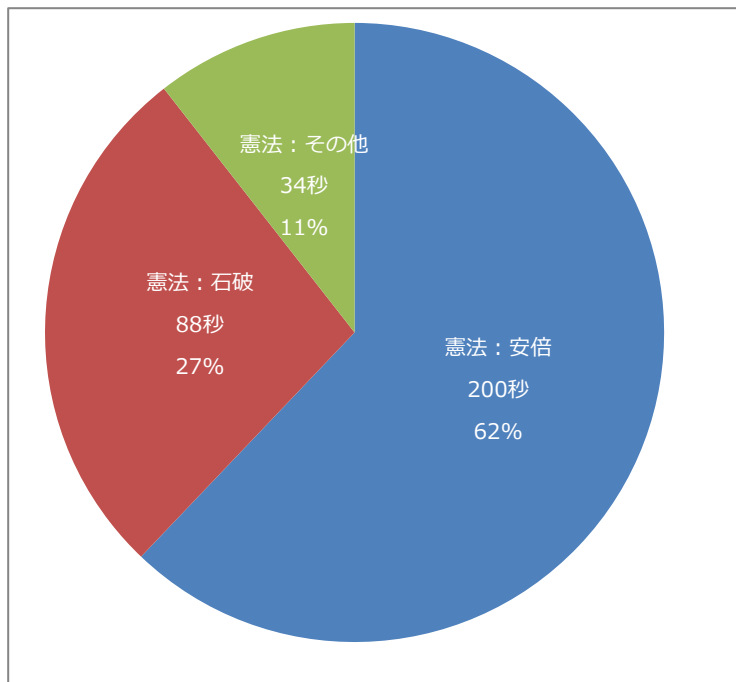
遊佐「そうすると立憲民主党の枝野さんとも粘り強く協議していくってということ？」

安倍「まあ安倍晋三が嫌いかもしれませんが、好き嫌いで判断しないで中身で決めてくださいよ。」

遊佐「でもどっかで打ち切りとかいう考えは」

安倍「いや、これ三分の二ですからどっかで打ち切るっていうのは最終的に成立しませんから。成立するのは国民が投票するんですね、じゃあ国民のみなさん葉ですね、じゃあ自分たちの権利どうしてくれるんだよ、三分の一のちょっとの人が反対していれば自分たち国民の権利行使できないのっていうことでもありますよね。で、例えば政権を長らく安定的に進めていきたいのであれば憲法改正なんか私はやりませんよ、総理の椅子に座っていたいのであれば、ではなくてやっぱり目指すべきことをしっかりと責任を持ってやっていきたいと私は考えています。」

この論点について当てられた時間は 322 秒で、時間配分は以下の通りであった。



【論点 3，森友加計問題】

スタジオと VTR で以下に朱記したような問題提起がなされた。

雨宮塔子「はい、続いてはこちらのテーマです。」

ナレ「安倍政権を大きく揺るがせた森加計問題、問われたのは利害関係者との距離感です。国有地を格安で購入した森友学園、名誉校長を務めていたのは昭恵夫人でした。」

籠池泰典（森友学園理事長：当時）「安倍首相、あるいはその昭恵夫人の心を心として付度をして動いてきたのではなかろうかな、というふうには思っております。」

ナレ「財務省は当時理財局長を務めていた佐川氏のもと、決裁文書から昭恵夫人の名前を消すなど改ざんにも手を染めていました。一方、52年ぶりに新設された獣医学部、加計学園が事業者に決まる前、安倍総理と加計学園の理事長は何度もゴルフや食事をともにしていました。安倍総理はその当時加計学園が獣医学部新設を計画していることを知らなかったとしています。」

大串博志衆院議員（民進党：当時）「加計学園が申請しているということを今年の1月に認められた時に初めて知ったということですか。」

安倍総理「知った時期については今申し上げたとおりでございます。」

ナレ「しかし、これより2年ほど前の愛媛県の文書には当時の総理秘書官が本件は首相案件と発言していたと記されていました。ただ、本人は発言を否定していて食い違いを見せています。」

この問題提起をうけて、スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返された。

星浩「はい、まず森友学園問題ですが、振り返ってみますとね安倍総理が関わっていたら総理も国会議員も辞めるという答弁がありました。あの段階でですね、仮に総理がもし自分と昭恵夫人の問題があるなら調べてみよう、と、精査してみよう、って言うことでしっかりと精査して決裁文書もチェックしていれば問題はこんなに広がらなかったような気がするんですが、そのへんの反省はいかがですか。」

"安倍「あの、確かにですね、私の妻が名誉校長を務めていた。そして私の友人が関わっていたことですから、国民の皆さまが疑念を持たれても当然のことだろうと思います。しかし、私自身が一切指示をしていないということは明確に自信を持っていました。妻地震がその売買にあるいは認可に係るはずがないとについても確信をしておりましたから、あのようにならざるを得ないんです。で、事実ですね4000ページこれはおそらく皆さんもあまり読んでおられないんだらうと思いますが、

星浩「読みましたけど。」

安倍「本当ですか。」

星浩「はい、もちろん読みましたよ。」

安倍「4000ページ。」

星浩「仕事上。」

安倍「で、その4000ページにですね、私が指示したって言うこと、出ていました？ 出ていませんよね？ うちの家内が頼んだということ出ていますか？ 出ていませんよね？ ですからそれは明らかになっている、しかし、一方ですね、そういう疑いを持たれてもこれは当然だと思いますから、我々もしっかりとですね、そういう意味においては我々自身も、今後、李下に冠を正さずという気持ちでですね、対応していかなければ行けない。まあ今読んでないんじゃないんですか、って失礼なことを申し上げましたが、でも多くの方はおそらく4000ページも読みませんよね。その上で報道されている。あと、先ほど秘書官があったと、それはもう秘書官も認めました。しかし、あれからですね、あれから獣医学部の議論が始まったという報道がずいぶんありました。でもそうではなくて半年会えにですね、特区会議で、有識者が発議をしてそこから議論が始まりました。」

星浩「加計問題はまた」

安倍「この問題についてはですね、ほとんど報道されていないんですね、こっちは報道されていない。半年前に実はその議論が始まっていたのに、でもこっから議論が始まったかのごとくの報道がありましたから。そういう誤解についてもですね、質問をされれば一つ一つ丁寧に答えをしていきたいというふうに考えています。」

星浩「あの、森友学園の国会の議論の中にですね、その総理の答弁の中でもその佐川さんの国税庁長官になったことに適材適所だったって言う答弁があったんですね、アレはやはり一般の国民からしたらそうかな、って言うおそらく素朴な反応があると思うんですけどもこのへんはいかがですか。」

安倍「あの、基本的に人事についてはですね、どういう人をどういうポストにつけるってということについては所掌の大臣が考え、そして最終的には我々がそれを承認するってことでありますが、基本的には適材適所ではない人事というのを我々が行うつもりはありませんからそういう意味でそういうふうにお答えをしている、とい

うことでございます。」

星浩「それから加計学園の問題ですが、あの、やはり加計孝太郎さんがいずれその利害関係者になる可能性があったわけですね、その許認可ということで、その利害関係者になるかもしれない加計さんとやはりあの頻繁にゴルフ会食を重ねたというのは率直に言って総理そのまじったなという気持ちはあるんですか。」

安倍「結果としてはですね、そういう形になりましたので、今から考えればですね、そういう結果になるとは私思ってもみななかったわけですから。でも今から考えればですね、そういうことにも貴慮すべきだったナ、とこう思っています。ただ、はっきりと申し上げておきたいのは私、いわゆる利害関係者から一円も献金を承けていないわけですから、加計さんからもそうですし、もちろん、あの、獣医師会からも私一円も献金承けていません。ですから、そういう意味に負いては今までの様々な国会を巡る事件とは一切、これは関わりのない話であって、一部報道ではロッキード事件とは同じだという報道もなされましたよね。ずいぶんなされましたよ。私の妻の名前でアッキード事件といういわばレッテル貼りもですね、報道でなされていました。しかし、そういうのではなくて、全くそういう献金というのは一切ないということももう明らかになっていますよね、しかしただ、今干しさんがおっしゃったように友人であるから疑われるということについては、注意深くしていなければならない、というふうに思っております。」

星浩「そうですね、例えば金融庁の幹部が友達だからといって、メガバンクの頭取とこれほどそのゴルフとか会食を頻繁に重ねるって事自体、いかがっていうことになると思うんですよね。」

安倍「ただですね、」

星浩「お金がないにしても」

安倍「ただ、星さんがおっしゃっているのはそういう利害関係があったから親しくするというのではなくて、元々の友人ですから、利害関係ができて、例えばかつての財務省の大蔵省時代の事件がありましたよね、アレは利害関係ができて、いわゆるもふたんの人たちと付き合いができた。で、私の場合はずっと付き合い合っているわけでありまして。だから、利害関係ができてからですね、友人になったのではないわけでありまして、ですから、金融庁の人がですね、金融庁の人が知り合うというのは例えば仕事柄知り合うわけですよね、それとは全然知り合うところをですね、意図的にそういう」

星浩「学生時代の友達でも金融庁の幹部とゼネコンの頭取はゴルフをしてはいけませんよ。」

安倍「ゼネコン？」

星浩「あの、メガバンクの人、と、金融庁の幹部は学生時代友達だったからいいだろう、っていう理由にはならないですよね。」

安倍「ゴルフをしてはいけないというのは、いわば。」

星浩「例えば会食をしてごちそうになったり。」

雨宮塔子「石破さんにも聞いてみましょうか。石破さんでしたらね、例えば加計さんのような立場にある方とお友達だったとしてもゴルフはしますか。」

石破「うーん、それは自分が権限を持っているときはしません、少なくとも、ですから。やっぱり職務権限は持っているわけですよね、私も国家戦略特区担当大臣でした。少なくともそういう権限を持っている間は接触はしない、それはあらぬ誤解を招いてはいけませんのでね、そういうことだと私は思っています。ですから、そこは、本当に長年の友人であっても、私もいますよ、そういう友人はね、ですけども職務権限を持っている間はそれは

もう接触はしない、そういうもんだと思います。」 "

"安倍「ただ、ですね、あの星さんちょっとゴルフに偏見を持っておられると思います、あの、今オリンピックの種目になっていますから、ゴルフが駄目ですね、テニスはいいのか、将棋はいいのか、ということなんだろうと思いますよ、ただまあ公務員の倫理規定の中にはゴルフが入っていてこれはまあ色んな議論があります、ゴルフをやっておられる方からはそれは本当になくしてもらいたいと強い要請もあります、そういう色眼鏡で見られますから、ゴルフをやっているとですね何か良からぬことをしているのか、という誤解をおそらく持っているんだろうと思いますが、まあそうではないですよ、ゴルフもやっぱりスポーツの一つですからその中においてですね規定があればそれに従うのも一つでしょうし、公務員には公務員の倫理規定がありますからその中で動いてい、でも政治家の場合は例えば私、経済界の人たちともゴルフはします。それが良くてですね、こう言うくらいの人ならいいけれどもあまり世の中から知られていない人とやってはならないということでやってはならない、ということでおっしゃっているのであればですね。」

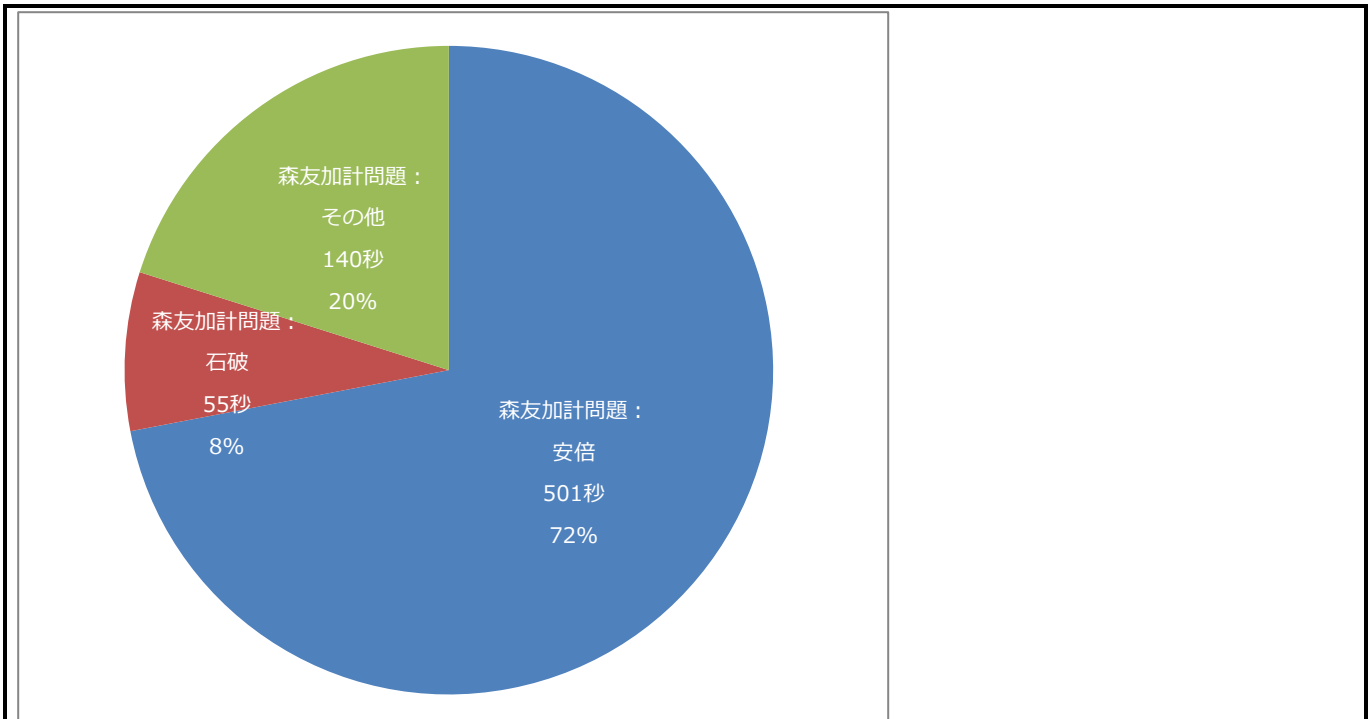
星浩「利害関係者ということを行っている。」

安倍「利害関係者ということであればですね、私はいつでもその維持できませんから、そこではちゃんと私は自分の分は払っています。」

星浩「許認可を申請する人と許認可をする人」

安倍「許認可をしてるかどうかということ私をここでは本当に知らなかったわけでありますから、それはそういう、であと星さん大切なことはですね、これ本質論をここで議論したいと思うのですが、やっぱり政治というのはプロセスが果たして透明で適切かということだと思います。その意味においてはですね、この獣医学部、を始め特区問題については議事録を公開しております、そして特区プロセスに関わってきた人たち八田座長を始めですね、多くの方々、あまりみなさんそれは取り上げていただけていないんですが、一点の曇もないということをおっしゃっていますよね。この方々が決めていくわけでありまして、ですからそこはですね、果たしてどうかということをおちゃんと見ていく必要があるんだろうと思います、ただ、議事録の中にですね、議事録自体を誰がこういったああいったということはちゃんとその人に確かめて、その議事録を書いていこうというふうに今度変えていきます、より一層透明性を高めていく必要はあるのかなあとと思います、今後もですねこの問題について今のように問われればしっかりとお答えをしていきたいとこういうふうにありますんで、公平な報道をよろしくお願い致します。」 "

この論点について当てられた時間は 696 秒で、時間配分は以下の通りであった。



【論点4、杉田水脈】

スタジオで以下に朱記したやり取りが繰り返り広げられていた。

雨宮キャスター「続いてはこちらですね、杉田議員の発言です、彼ら彼女らは子どもを作らない、つまり生産性がないのです。」

"雨宮塔子「ええ安倍さん、杉田さんは謝罪も撤回もしてませんよね。」

安倍「あの」

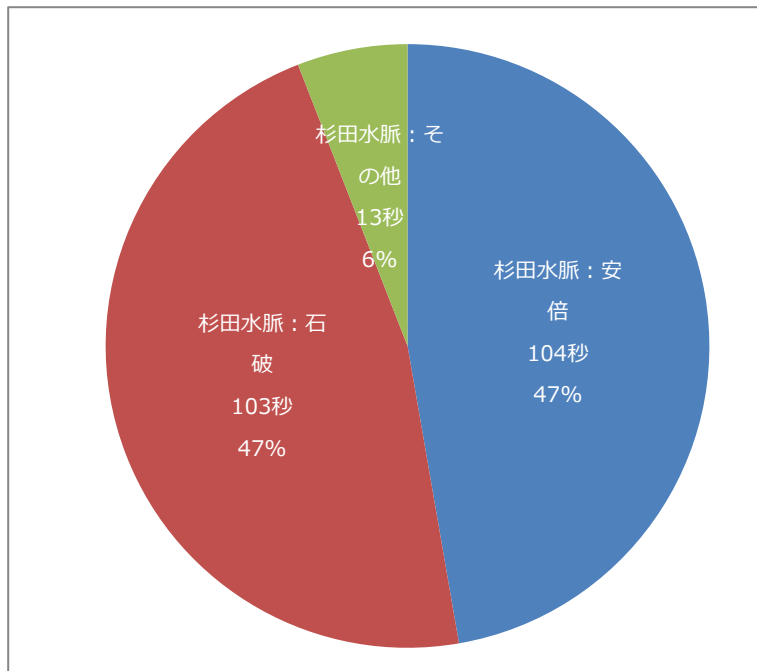
雨宮塔子「そして党としても。」

安倍「私の夫婦もですね、残念ながら子宝に恵まれていません、だからといってですね生産性がないと言うと大変、つらい思いに私も妻もなります、ですから政治家というのは自分の言葉によって人がどのように傷ついているかって言うことについてはですね、十分に考えながら発言をしていくべきなのだろうな、とこう思います。で我々同じ自民党ですから、あんたおまえもうやめろ、というのではなくてまだ若いですから、そういうことをこれからしっかりとですね注意をしながら、仕事をしていってほしいと、先輩としては私はそういうふうに申し上げていきたいと思えますし、党としてもですねいわば多様性についてですね、尊重する党であります。で、私もですね、例えばルクセンブルグの首相はですね、もう同性婚をしているということをカミングアウトしていますが、私、彼はもっとも親しいヨーロッパの首脳の一人です、まあ彼からはなにかヨーロッパでなにかわからないこと、こまったことがあればすぐに電話してほしいと携帯電話の番号まで聞いています、つまりこういう多様性が世界で求められている中でですね、それを十分理解をしていくことがですね、求められているんだろうなと思えますし、自由民主党がですね、そういう党ではないということではないということは申し上げておきたいと思っておりますし。」

"雨宮塔子「石破さん」

石破「当たり前の話ですけれどもお子さんを産まないのは生産性がないのです、それは生産性の理解が全然足りないんじゃないですか、今、我々は生産性を上げていかなければいけない、このお金出してもこんな物欲しいなっていう商品を作っていく、それが経済学的に言う生産性であってお子さんを産む産まないなんてなんの関係もない、それは生産性が低いのです、いいきること、それは私は全く正しいことだとは思わないですし、多様な意見があるだからいいんだっていう自由民主党であっていい、と私は思わないですね、これでどれほど傷ついた人がいるだろうか、LGBTの方ってのはだいたい8%くらいいらっしゃるわけですよね。そういう人たちがなんの偏見もなく個人として尊重されるそれが自由民主党の目指す姿なのであって、そういう人たちの気持ちを傷つけていい、などということにはならないし私も総理も中国ブロックですけれどもこの人中国ブロック実質比例第一位です。我々中国地方が出しているということになっているんです、1票入れてくださった方々に我々は説明する責任をおっているんです、彼女が一位になったってのは解散のソニ費に知りました。それは本当にいいことなのだろうか、自民党の色んな人達がいる、中国ブロックにいる、党のために一生懸命頑張った人もいる、そういう人たちと比較をしてみて誰がいいんだろっていうことを決めるのをやっぱり等が国民に対して果たすべき責任だと私は思っている、これが多様性があるいいことだ、って私はそんな自民党であってほしいとは思わない。」

この論点について当てられた時間は220秒で、時間配分は以下の通りであった。



【論点5、石破派】

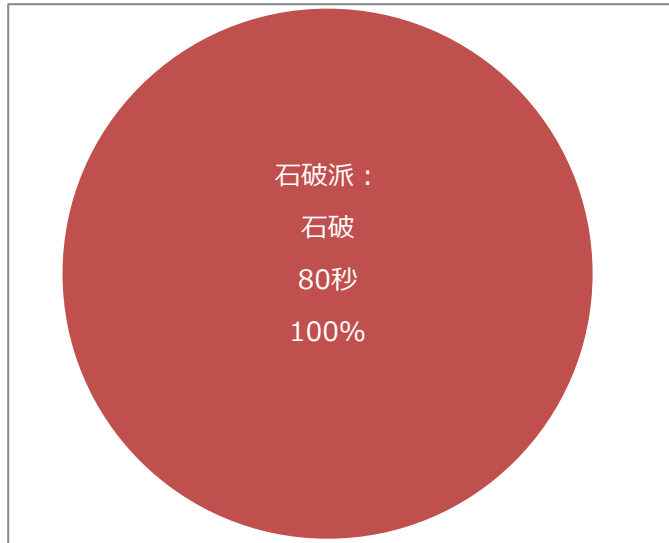
スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返り広げられていた。

星浩「石破さんに一つお聞きしたかったのですが、尊敬する政治家として田中角栄さんとかですね、竹下さんを上げていますよね、田中さんとか竹下さんはやっぱりこうどんどん仲間が増えて派閥が大きくなって100人120人なってきましたけど、石破さん今ひとつその増えないのはなんかどういう理由があると自分で見ているんですかお金ですか、それとも性格ですか。」

石破「そう、お金はそんなにないですけどね、でも、やっぱりこうなんですか、やっぱりこう、もっと食事

をしなさいとかね、もっとお酒を飲みなさいと言われるんですけどもね。私は派閥がどこであろうと、大臣のときも、幹事長のときも政調会長のときも、私が今日応援に行く人は何派だっけ、なんてなことが多くてね、やっぱり一番選挙、この人を頼みますよ、自民党の同志をお願いしますよ、っていうこと、私は回数としては誰よりも多く言ったかもしれない。ですから、その人が国会議員になる、そのお手伝いをする、ってのが私は一番大事なことだな、と思っております。ですけどもいま星さんのご指摘はやっぱり自分にも至らないこともあるんだろうね、ってことで、お前ね本ばかり読んでないでもっと飲むんだよ、っていうご指摘はもっと謙虚に受け止めてなきゃ、飲まないわけじゃないんですけどね。」

この論点について当てられた時間は 80 秒で、時間配分は以下の通りであった。



今回の、討論において、各論点によっては、発言時間の配分に大きな偏りが見られた点があったが、それは森友加計問題であったり、石破茂元幹事長が尊敬する田中角栄や竹下登と石破茂の違いについての石破茂氏自身の自己認識であったり、どちらかの候補には語ることがあるが、どちらかの候補にはほとんど語る内容がない、という論点であった。そうした点を踏まえると、論点によってはどちらかの候補ばかりが発言しているというものもあるがそれ自体が放送法に照らして直ちに問題があるとは言えないと考えられる。

・南北朝鮮：結論→特に問題なし

明日から韓国と北朝鮮の第三回首脳会談が開かれること、韓国のムン・ジェイン大統領は明日平壤に到着し歓迎式典と昼食会に出席した後に金正恩党委員長と首脳会談に臨む予定であること、焦点は朝鮮半島の非核化であることが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は 88 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・海自潜水艦が南シナ海で初訓練：結論→特に問題なし

海上自衛隊が南シナ海では初めてとなる潜水艦が参加した訓練を先週実施したと発表したこと、これに対する中国外務省報道官「(域外国が) 視聴に行動し地域の平和と安定を損害しないよう促す」というコメントが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は 69 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・ 自民党総裁選

自民党総裁選での両候補の討論企画であったがアジェンダセッティングは番組側が行っていた。同様の企画を他の局・番組でも行っているとすれば、何をアジェンダとして取り上げていたかを比較することで、各局や番組の見識や問題意識の違いも鮮明になるのではなかろうか。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：9月18日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙		
検証テーマ：南北首脳会談、米中貿易戦争、自民党総裁選、中東シナイ半島へ自衛隊の派遣検討		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南北首脳会談 ・米中貿易戦争 ・自民党総裁選 ・中東シナイ半島へ自衛隊の派遣検討 ・広がる宇宙ビジネス ・北海道のすべての小中学校など授業再開、苫東厚真発電所一号機があす再稼働 ・関東でゲリラ豪雨 ・スポーツ報道 ・23Today <p>南北首脳会談 米中貿易戦争 東京六本木で運転手交通トラブル殺人の続報 台風被害から2週刊、関空連絡橋の鉄道再開 全国地価27年ぶりに上昇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気予報 ・クロージング：南北首脳会談 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南北首脳会談：結論→特に問題なし <p>平壤に到着した韓国のムン・ジェイン大統領夫妻を金正恩党委員長夫妻が直接で迎えるなど異例の厚遇で南北首脳会談が行われたということが伝えられた。また、スタジオと中継の間では以下に朱記したやり取りが繰り返された。</p> <p>雨宮塔子「ムン・ジェイン大統領、今回の訪朝で大歓迎を受けていますが金正恩党委員長の狙いはなんなんあおか、ソウルの曾根記者に聞きます、曾根さん。」</p> <p>曾根英介（報告「はい、こちらプレスセンターでは今夜行われた晚餐会の映像がこちらのモニターで公開されています。晚餐会は午後8時37分に始まり、午後10時53分に終わったということです。その席上で金正恩党委員長なんですけれども、前途には相変わらず多くの難関が待っていて逆風もあなどれないとした上で板门店宣言を継承発展させるために諸問題を虚心坦懐に議論すると述べたということです。さて、韓国メディアも破格の待遇と伝えるほどの歓待ぶりですけれども、これは金党委員長の危機感の裏返しとも言えそうです、北朝鮮は南北関係を改善しまずは韓国からの経済支援を受けたい、そして国連などの制裁を一日も早く緩めて、一息つきたいというのが本音です。しかし、そのために必要なアメリカとの非核化交渉は難航していて、これが前に進まな</p>		

放送法遵守を求める視聴者の会

れば朝鮮戦争の終戦宣言への道筋も見えてきません。北朝鮮側は当初在韓米軍の撤収を終戦宣言とセットで要求していました。しかし、韓国の外交関係者は北朝鮮側はその後終戦宣言だけをシンプルに進めたいとハードルを下げてきたと話しています。今回ムン・ジェイン大統領はアメリカと詰めた非核化へ向けたロードマップを持って首脳会談に望んでいて、そのムン・ジェイン大統領との距離を近づけ、少しでもいい条件を引き出したい考えだと見られます。」

雨宮塔子「ということは北朝鮮の狙いは結局米朝首脳会談の実現のようですが。」

星浩「まあそうですね。」

雨宮塔子「実際に話し合いは進んでいくのでしょうか。」

星浩「ここはポイントだと思いますね。まあ順調に行けば今回の南北首脳会談を受けて、そのムン・ジェイン大統領が訪米してトランプさんにもう一回米朝首脳会談やったらどうですか、と提案するわけですね。しかしまあアメリカは、以前も申し上げていますが、核施設のリストをちゃんと示せ、と。非核化の工程表を出さない、と強く要求しているんですね。そもそもこの核施設のリストなんですけれどもそう簡単ではなくてですね 100箇所くらいあると言われていたんですけど、それを一つ一つ地獄句してこの施設にはこういう設備があるんだっていうのをチェックして、それを解除するということをやらなくちゃいけませんから、相当時間がかかるんですね。アメリカの方のボルトン補佐官たちはその中途半端な中でもう一回米朝首脳会談というわけには生きませんよ、という考え方なんです。一方トランプ大統領はその 11 月 6 日の中間選挙に向けて、成果を出したいもんですから、まあもう一回米朝首脳会談をやってもいいかなということにして、今度アメリカの国内でどういう反応を見せるかということで、これからまたちょっと一混乱はあるという状況ですね。」

このトピックについて当てられた時間は 669 秒で、放送法上の問題は見られなかった。

・米中貿易戦争：結論→特に問題なし

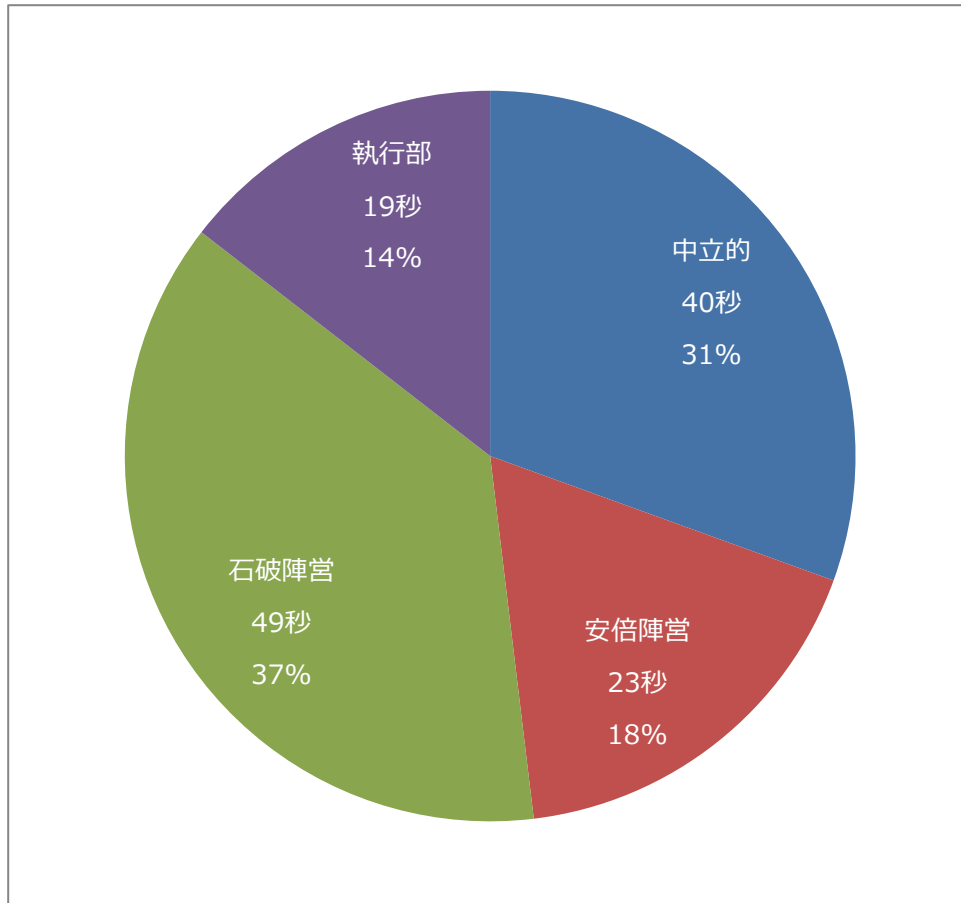
アメリカと中国は 2 回に渡って互いに関税を上乗せする報復合戦に突入していること、今回アメリカが第三弾となる制裁関税を 24 日から発動すると発表すると中国もさきほど報復関税を発表し応酬はエスカレートしているとのことが報じられた。またスタジオでは雨宮キャスターの「アメリカと中国との制裁関税の応酬ですがなぜこんなにもエスカレートしてきたのでしょうか。」という問いかけに対して、星キャスターが「そうですね、先程申し上げたやっばり 11 月 6 日の中間選挙が一つポイントですね。トランプさんはこれはやっばり指示集めのために引くに引けませんからね。ええ、あの、貿易赤字を減らすんだということをアピールしたいわけですから。ただ最近少し気になるのは、その米中関係がその貿易問題だけじゃなくて、知的財産がアメリカは侵害されているということで中国をバッシングしているんですよ。加えてですね、人権問題でも中国に対して批判を強めていて、どうも米中間の関係は単なる貿易の関係から覇権争いに発展してくるということでえ行くに引けない状況がしばらく続くという厳しい状況ですね。」と応答していた。

このトピックについて当てられた時間は 215 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・自民党総裁選：結論→他の放送日との比較が必要

自民党総裁選について報じられた。この報道では中立的な場面、石破陣営の発言を取り上げた場面、党執行部としての発言を取り上げた場面、安倍陣営の発言を取り上げた場面に大別された。このトピックについて当てら

れた時間は 131 秒で、それぞれの場面に当てられた時間及びその比率は以下の通りであった。



中立的な場面では、石破派で現職の農林水産大臣である齋藤健氏に対して安倍陣営から辞任要求があったことが取り上げられていた。石破陣営の発言では、広島県を訪れた石破茂元幹事長が街頭演説で「おい、齋藤。石破を応援するんだったら大臣を辞めてからやれ、と言われた。ふざけるなと言ってやった。石破を応援するんだったら大臣をやめろとか、石破を応援するんだったら次の選挙は知らないぞとか、いつから自民党ってそんな自民党になっちゃったんですか。」と語るシーンと、会見での齋藤大臣が「改めて追加をしたり、改めて解釈をしたり、そういう事はありません。」と発言し名前を明かす考えはないと繰り返したとのことが取り上げられていた。

執行部の発言としては両陣営の激しい対立の中で執行部からは早くも選挙後を見越した発言が相次いでいる、として二階俊博自民党幹事長の「選挙が円満な形で終わることを願っています。」という発言が取り上げられていた。

安倍陣営の発言では安倍総理の「今回の総裁選挙は私にとって、実はもう 4 回目の総裁選挙でございます。まさに自由民主党らしい格調のある総裁選挙にしたい、と、こう思っております。」という発言が、選挙戦を終始優位に戦っている安倍総理からは余裕とも取れる発言として紹介されていた。

・ 中東シナイ半島へ自衛隊の派遣検討：結論→特に問題なし

過激派組織イスラム国の活動地域としても知られるシナイ半島に自衛隊の派遣が検討されていることが今日、

明らかになったとのこと、政府関係者によると自衛隊の派遣先として検討されているのはシナイ半島に駐留している多国籍軍 MFO、エジプトとイスラエルの停戦監視にあたっている部隊の司令部であること、自衛隊が国連主導ではない多国籍軍の枠組みで停戦監視や治安維持活動に参加すればはじめてのケース、三年前に成立した安保法制に基づく新しい枠組みを使つての派遣となるとのことが報じられた。

また、これについて有識者の見解として公益財団法人中東調査会の高岡豊主席研究員の「今でもイスラム国を名乗る団体っていうのが、それなりの頻度で活動しているわけなんですけれども 2015 年あたりをピークに低落しておりまして。」や「なにか戦争といったような形での武力衝突っていうのがおこる可能性っていうのは非常に考えにくいです。日本政府がなにか派遣先、要員の派遣先として検討しうる中では中東の中ではリスクが非常に、低いほうだと思っています。」という見解や笹川平和財団の小原凡司上席研究員の「自衛隊が今の安全保障法制のもとで PKO の部隊としてどこまで活動できるのか、ということはまだ議論の余地があるんだと思います、実際に部隊が行くとなれば現地住民を保護するという事は少なからずどちらかの側に立って戦闘を行うということになるわけですから、法律等で明文化した上で自衛隊を送らなければ自衛隊はまたその矛盾の中で苦しむことになる。」という見解が紹介された。また、防衛省幹部の声として「新しくできた法律の枠組みで初めて派遣することは一つの実績になる。」という声を取り上げられていた。

このトピックについて当てられた時間は 189 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・ 自民党総裁選

今日の報道では自民党総裁選について取り上げられた時間が明後日投開票を迎える割には少なかったように感じられた。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年9月19日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙		
検証テーマ：南北首脳会談と米朝関係、自民党総裁選、苫東厚真火力発電所再稼働		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南北首脳会談と米朝関係 ・自民党総裁選 ・中国、人気女優が消息不明に ・【セカイは今】再生かけ…大麻で町おこし アメリカ期待高まる新ビジネス ・宮城県仙台市、交番で警官が刺殺、容疑者の大学生は別の警官から射殺される ・W杯乱入バンドメンバー、毒をもらった可能性が高い ・苫東厚真火力発電所再稼働 ・スポーツ報道 ・23Today <p>南北首脳 自民党総裁選 奈良県郡山市、金魚電話ボックス巡り美術家が商店街を提訴 吉澤ひとみ容疑者、飲酒運転について新たな供述 風疹の感染拡大が止まらず、患者数はすでに去年の五倍に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気予報 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南北首脳会談と米朝関係：結論→特に問題なし <p>韓国のムン・ジェイン大統領と北朝鮮の金正恩党委員長が平壤で共同宣言に署名し非核化の方法についても合意に至ったとのが報じられた。</p> <p>これに対して、米朝関係に詳しい明海大学の小谷哲男准教授の「まあミサイルの施設の破棄については、あの、シンガポールでのサミットの際に金正恩委員長がトランプ大統領に伝えた、と。全く新しい話ではありませんし、抑要らなくなったものを破棄するということですね。北朝鮮は既にロケットエンジンの開発は成功していますから実験場はいらない。それから、そのミサイルの発射場についても、既に北朝鮮は、その、移動発射台を持っていますので、固定された発射台はいらない。」「寧辺はプルトニウムを生成することによって核兵器の燃料を作る施設であります。設備自体がかなり老朽化しているということですし、必ずしも必要な施設ではない、アメリカ、それから国際社会が北朝鮮の非核下で一番重要視しているのは、より、狭い場所で地下でもできるウランの濃縮施設であって、この寧辺の査察あるいは破棄では非核化が進むということにはならないと思います。北朝鮮がぎりぎり出せるところを出してきて、アメリカ、トランプ大統領を動かそうとした、と。」という見解が紹介された。</p> <p>また、トランプ大統領はワシントンでは深夜0時過ぎにもかかわらず、早速早速 Twitter で「とても興奮している」と反応し、さらに「金正恩氏が最終的な交渉次第では核査察の受け入れに同意した。ミサイルの発射台や</p>		

実験施設を廃棄する、ミサイル実験も核実験もなくなるだろう。」と、投稿したとのが報じられた。

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返された。

駒田健吾「そしてつい先程、この南北首脳会談についてトランプ大統領がワシントンで取材に応じました。それによりますと、星さん。北朝鮮と韓国からとてもいいニュースが届いた、と。彼らは首脳会談を行い、いくつかの素晴らしい回答があった、トランプ大統領はこのように述べまして南北首脳会談の成果について評価しました。」

雨宮塔子「トランプ大統領は評価しているようですが、実際のところどうなのでしょう。」

星浩「まずですね、今回の首脳会談、実はですね、この首脳会談に先立ってアメリカの国務省と韓国の外務省との間でですね、相当このシナリオを擦り合わせて、北朝鮮にここまで譲歩させようということをやっていたら試飲ですね。そうすると今回の合意についてはアメリカ韓国にとって想定内のことだったということが言えると思いますね。」

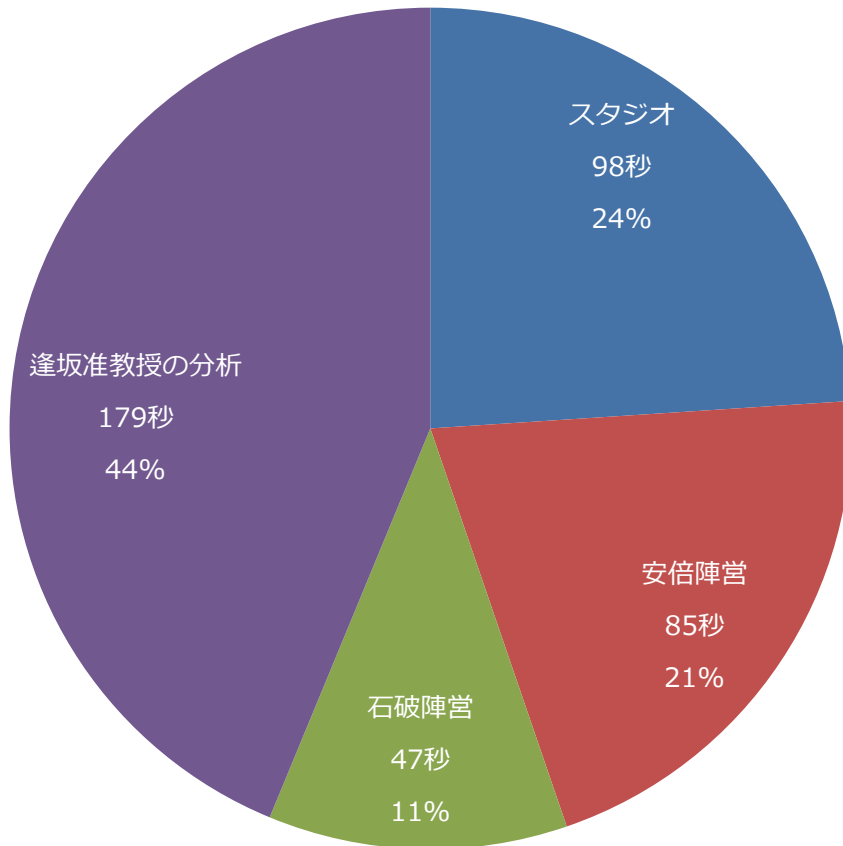
雨宮塔子「今後は進展していきますか。」

星浩「で、トランプ大統領は早速ですね、非常に歓迎のコメントを発表しておりまして、トランプ大統領からするとこれから第二回の米朝首脳会談につなげたいということなのでしょうが、アメリカでは国務省都議会にこれに対して非常に懐疑的な意見もありまして、そうかんたんではないですね。来週米韓の首脳会談がありますので、そこで正式に話を受けて、トランプ大統領そしてアメリカ政府全体がどう判断するか、そのへんがポイントになってくると思いますね。」

このトピックについて当てられた時間は 467 秒で、放送法上の問題は特に見られなかった。

- ・ 自民党総裁選：結論→一部好ましくないシーンあり

自民党総裁選についてスタジオでの発言がなされたシーンを「スタジオ」、安倍陣営の主張や演説の様子を伝えるシーンを「安倍陣営」、石破陣営の主張や演説の様子を伝えるシーンを「石破陣営」、総裁選についての逢坂准教授が分析を述べるシーン及び分析に対しナレーションで補足説明が加えられたシーンを「逢坂准教授の分析」と集計した。なお、「逢坂准教授の分析」は安倍総理が街頭演説会場とした秋葉原や、石破元幹事長が街頭演説会場とした渋谷で逢坂准教授がコメントをするシーンもあったが、それらはどちらも「逢坂准教授の分析」として集計した。この総裁選についての報道には 409 秒が当てられた。



安倍陣営の動きについては以下に朱記したシーンが取り上げられていた。

司会「総理が到着しました、皆さん。盛大な拍手でお迎えください。」

ナレ「「総裁選の締めくくりとなる街頭演説。総理が会場に選んだのは今回も秋葉原でした。」

安倍「私達は憲法改正に取り組むときを迎えています、自衛隊をしっかりと明記をして私達の責任を果たして行くではありませんか。」

ナレ「国会議員票の八割を固めたとみられる安倍総理、会場には多くの国会議員が応援に駆けつけました。」

麻生太郎財務相「明日は、いよいよ総裁選挙、投票日。もう一つなんの日か知ってます。俺の誕生日。」

ナレ「笑いを取る余裕を見せて上で。石破陣営を念頭にこんな発言も飛び出しました。」

麻生「冷や飯を食わせるな、とか、なんとかかんとか言っている人たちがいるみたいですが、覚悟が足りないんだ覚悟が。冷や飯を食うくらいの覚悟を持って戦って当たり前でしょうが。」

ナレ「最後に行った秋葉原での街頭演説。」

石破陣営の動きについては、以下に朱記したシーンが取り上げられ、そのシーンが取り上げられた直後に「国会議員表で劣勢の石破氏の狙いは浮動票。特に重視したのは SNS です。今日の渋谷でも SNS での拡散を期待してわざわざ写真撮影の時間を設けるなど、ネット上の露出を増やすことで支持拡大を狙います。」とナレーション

で説明されていた。

ナレ「一方の石破茂元幹事長、最期の演説場所を選んだのは渋谷でした。」

石破茂「私がやりたいのは一人ひとりを豊かにする、そういう日本を作っていききたい。」

逢坂准教授が自らの分析を述べるシーンでは以下に朱記した3つのシーンが取り上げられていた。

【シーン1、秋葉原】

ナレ「専門家の目にはどう移るのでしょうか。政治コミュニケーションを研究する逢坂准教授です。」

逢坂准教授（駒沢大学）「若い人が案外多いんですね。」

ナレ「選挙のたびに演説会場を訪れフィールドワークを続ける逢坂准教授、ある事に気づきました。」

逢坂准教授「ただ、あそこらへん全部こう隠すんですね。誰に対して隠しているのかっていうのはね。」

ナレ「視線の先にあるのは安倍総理への指示を訴えるのぼり、その裏にはアベヤメロと記された横断幕がありました。」

群衆「アベヤメロ、アベヤメロ」

ナレ「総理の退陣を求め声を上げる人たちもいますが、最前列にいるのは総理の支持者ばかりです。それには理由がありました。」

逢坂准教授「あの、今回こういうものを配ったみたいなんですよね。」

ナレ「会場にいた複数の自民党関係者によりますと、このシールがないと最前列にはいけないのだと言います。」

逢坂准教授「あの、安倍さんが首相になってからは演説会はこういうふうな雰囲気になってきて、要するに反対の人達が出てきてアピールをすると、それに対して賛成の人たちが、その声を封じ込めようとする、っていうような演説会がとて多くなっていますよね。」

【シーン2、渋谷】

ナレ「演説を見ていた逢坂氏は。」

逢坂「通行人がそんなに足を止めてるっていうわけでもないのに、全体的に自民党の総裁選に対してそれほど大きな関心も持たれていないっていうのはこの討論会からも見ることができると思います。」

【シーン3】

ナレ「2つの演説会場を見た逢坂氏、一つ残念なことがあると言います、それは。」

逢坂「この前の総裁選というのは最後はみんなで新宿でやりましたが、今回石破さんと安倍さんがそれぞれ別のところでやられるというのはちょっと残念な感じもしました。」

ナレ「確かに、前回、2012年の総裁選では告示後23回に渡り候補者全員による討論会や街頭演説が行われました。しかし今回は北海道自身の影響で自粛したとは言え、二人が揃ったのは8回のみ。」

逢坂「自民党のことをよりアピールしたいのであれば一つのところに集まってお互いのその候補がですね、仲良く議論をする、討論をするということが自民党のアピールになったと思うんですけども、」

ナレ「候補者の訴えは黨員にそして国民にどう響いたのか。その答えは明日午後二時過ぎに明らかになります。」

また、スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

雨宮塔子「総裁選はいよいよ明日投開票ですが星さん、安倍総理の優位はもう動かないようですか。」

星浩「そうですね、安倍さんの優位は動かないのが最終盤となったと思います。そこでまあ自民党の中で言われているのは、その仮に石破さんが負けるにしてもその負けっぷりが焦点だということですね、はい。石破さん国

会議員票では 50 票くらいにとどまるのかな、党员票では 100 票程度かなと言われているんですが、そういう意味ではですね、ちょっと押されてはいるんですけども、最終盤で更に波乱があるのかどうかということですよええ。」

駒田健吾「この見立てからですね、どれくらい票を伸ばすと石破さんの存在感を保てるのか。」

星浩「そうですね。国会議員でも実は更に隠れ石破票があって、ちょっと増えるか、それから党员票もじわじわと増えて 150 くらいになってトータルで 200 に迫る、ないしは 200 を超えるようになると石破さんはポスト安倍として存在感を維持するというふうに政治的にはなると思いますね。はい。」

なお、このシーンでは画面右上に「自民総裁選 あす投開票 注目は負けっぷり」というテロップが終始表示されていた。

時間配分という点での公平性という点については他の放送日との比較が必要であると考えますが、スタジオでのやり取りが繰り広げられたシーンで終始、画面右上に「自民党総裁選 あす投開票 注目は負けっぷり」と表示されていた点については、既に石破氏の敗北が決定しているかのような報じ方であり、放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」という点に照らして考えると好ましくないであろうし、なにより選挙中での大メディアによるこうした扱い方というのは、実際に選挙を戦っている安倍・石破両陣営に対して失礼ではないだろうか。

- ・ 苫東厚真火力発電所再稼働：結論→特に問題なし

北海道で最大震度 7 を観測した地震により大規模停電の引き金となった苫東厚真火力発電所で今日午前一号機の運転が再開したこと、これで北海道内の電力供給は地震前日の需要を上回るようになったことで国などは節電要請を解除したこと、北海道電力は冬の電力需要を賄うため残る二号機と四号機の復旧を急いでいるとのことが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は秒で、放送法上の問題は特に見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

- ・ 自民党総裁選

スタジオでのシーンで終始「自民党総裁選 あす投開票 注目は負けっぷり」というテロップが表示されていたことについては、投開票を迎える前からすでに石破氏の負けが決まっているかのような印象を与える、ないし強めてしまうおそれが高く、印象操作であると言えるだろう。

検証者所感

- ・ 自民党総裁選

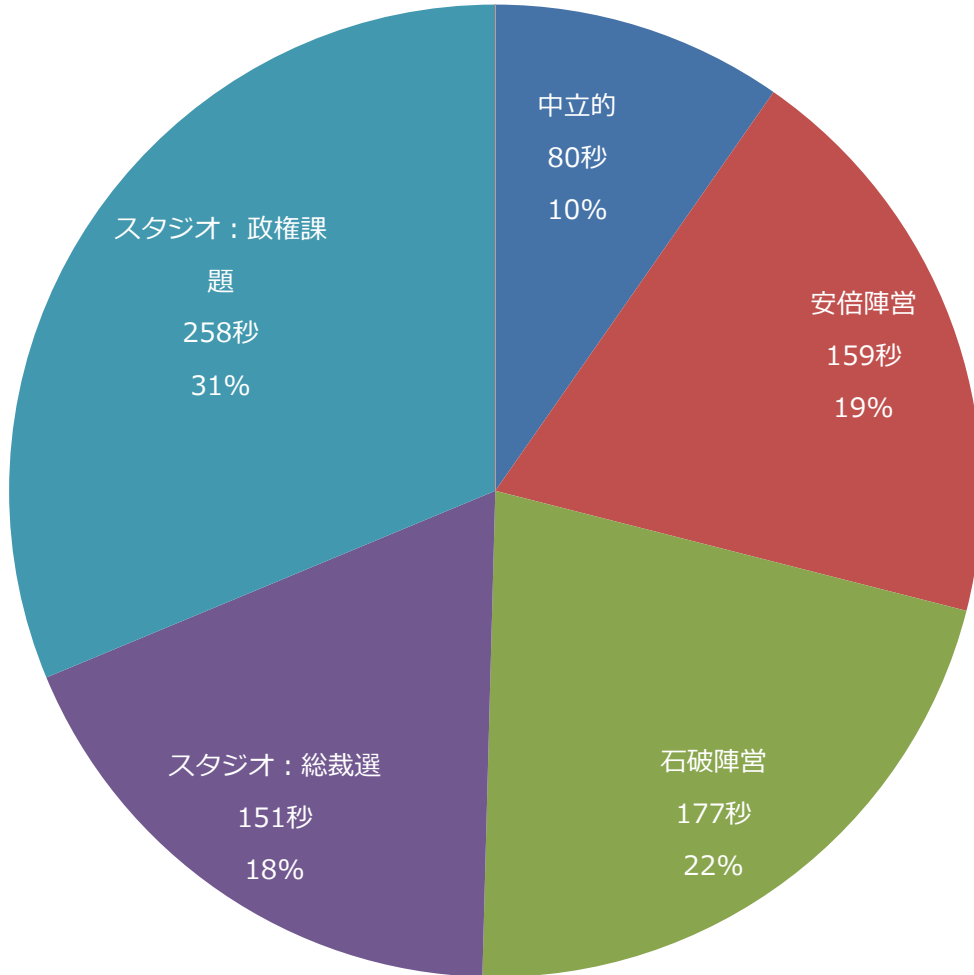
麻生財務大臣の「冷や飯を食わせるな、とか、なんとかかんとか言っている人たちがいるみたいですけども、覚悟が足りないんだ覚悟が。冷や飯を食うくらいの覚悟を持って戦って当たり前でしょうが。」という街頭演説での発言は、2001 年（当選者、小泉純一郎）、2006 年（当選者、安倍晋三）、2007 年（当選者、福田康夫）、2008 年（当選者、麻生太郎）と 4 回の総裁選に出馬をし、3 度目の正直ならぬ四度目の正直で総裁に当選した麻生氏ならではの重みが感じられた。

また、今回の総裁選で、石破氏の敗北が決まっているかのような報じ方が感じられたのは今日の報道だけではなかったが、「注目は負けっぶり」などとメディアに評されたのには驚きを感じた。確かに、はじめての総裁選出馬であれば、まずは総裁選に出馬するだけの推薦人を集め、選挙戦を戦うだけの陣容を整える、というだけでも非常に大変なことなのだろうから、まずは総裁選を戦い抜いたという事実とそれによって総裁候補としての力量を示すことが大事で実際の勝ち負けは二次だということもわからなくもない。総裁選に実際に出馬することで総裁候補として認識される、という効果はあるからだ。しかし、石破元幹事長は2008年（当選者、麻生太郎）と2012年（当選者、安倍晋三）と既に二度の総裁選に出馬しており、自民党で幹事長まで務めた有力政治家である。そうした有力政治家に対して「注目は負けっぶり」というまるでこれまで総裁候補として認識されていなかった通行人候補みたいな扱いをするのは違和感を覚えた。

選挙と報道の関係では、事前にマスメディアの選挙予測報道などで優勢とされた候補者に有権者が投票しがちになる現象を指す「バンドワゴン効果」と逆に選挙予測報道などで劣勢とされた有力候補者に有権者が投票しがちになる現象を指す「アンダードッグ効果」という2つの正反対の現象が「アナウンス効果」として知られているが、そうしたなかで、「注目は負けっぶり」などと報じるのはいささか軽率ではないだろうか。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年9月20日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙		
検証テーマ：自民党総裁選、文科省不祥事、南北朝鮮、杉田論文、北海道地震と電力、イギリスとEU		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自民党総裁選 ・ 文科省不祥事 ・ 南北朝鮮 ・ 杉田論文 ・ 北海道地震と電力 ・ 静岡県牧之原市の住宅街で野生のサルが出没 ・ スポーツ報道 ・ 23Today <ul style="list-style-type: none"> 自民党総裁選 南北朝鮮 東京ゲームショウ、復刻プレステ世界初披露 イギリスとEU ガソリンや灯油で続く値上がり ・ 天気予報 ・ 【速報】NY株式市場8ヶ月ぶり最高値更新 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自民党総裁選 <p>自民党の総裁選の結果について取り上げられた。このトピックについては、総裁選についての中立的な報道、安倍陣営にスポットを当てたシーン、石破陣営にスポットを当てたシーン、総裁選についてスタジオで論評されたシーン、総裁選後の政権課題についてスタジオで論評されたシーンの5つのシーンに大別された。</p> <p>このトピックについて当てられた時間は825秒で、それぞれの場面に当てられた時間の配分と比率は以下の通りであった。</p> 		



中立的なシーンでは投開票のシーンや安倍総理が総裁に選出されたという事実が伝えられた。

石破陣営の動きについては石破氏の「全力を出し切った、という。もちろん反省すべき点はいっぱいあるが。」というコメントや、決戦の日の朝午前5時に起き国会前の理髪店で髪を整えたこと、出陣式では石破氏を支持する議員とともに勝つためにカツカレーを笑顔で頬張ったこと、開票時の司会の「議員票は安倍晋三くん329票、石破茂くん73票」という結果発表に「えっ」と驚いたような表情を示していたシーンが取り上げられ、石破陣営はおおよそ50人ほどの支持を固めていたが、隠れ石破支持ともいえる議員が20人ほどいたことになるということも合わせて伝えられた。

石破氏は国会議員票では2割弱の得票だったが、地方票では45%近くの票を獲得し地元鳥取など10県（山形県、群馬県、茨城県、富山県、三重県、鳥取県、島根県、徳島県、高知県、宮崎県）で石破氏の票が安倍総理の票を上回ったことが伝えられ、これについてナレーションで「議員票と地方票の乖離も浮き彫りに」と評されていた。

また、総裁選を終えての石破氏については以下に朱記したシーンが取り上げられた。

ナレ「戦いを終えたいス波氏、そのまま TBS の番組に生出演すると。」

石破「はい、こんにちは。はい、ありがとうございました。」

ナレ「予想以上の善戦に充実感がにじみます。」

石破「うん、ありがたい数字だったと思いますね。本当に皆さんのおかげです。もう厳しい中で本当にヨオクお支えいただきました。」

ナレ「更に今後の人事について問われると、」

石破「冷遇とか、干しあげるとか、そういうのが当たり前だ、みたいな自民党であって、どうして国民の範たりうるか。本当に国家国民のために力を尽くす能力のある人が使われないのは、国家国民のためにならないでしょ、それだけのことです。」

ナレ「投票先が注目されたこの人は、」

小泉進次郎「私は石破さんに一票を投じましたけれど、違う意見を押しつけるのではなくて違う声を強みに変えていく、そんな自民党でなければならぬ、と。そんな思いから私なりに判断して投票しました。」

安倍陣営の動きについては「今日もカツカレーを皆さんとともに食べさせていただきましたが。」という安倍総理のコメントと出陣式ではカツカレーを食べて決戦に臨んだとのこと、総裁選の結果を受けた安倍総理の「堂々と論戦を展開していただいた、石破さん、心から敬意を評し、まずその健闘をたたえたいと思います。力を合わせて新しい日本を皆さん、作って行こうではありませんか。」というコメントが取り上げられた。

また、総裁選の結果を受けての安倍陣営として、以下に朱記したシーンが取り上げられていた。

記者「安倍総理も、代議士も、ちょっと、あの謙虚にという地方票の出方が表していると言えますか？」

麻生太郎「選挙というのは勝てばいいんで、その内容がどうのこうのというのはマスコミがあとから付け足した話ですから。」

記者「憲法改正できますか？」

ナレ「夕方会見に臨んだ安倍総理、憲法改正については重ねて意欲を示しました。」

安倍総理「70年以上一度も実現してこなかった憲法改正にいいよ挑戦をし、平成のその先の次代に向かって新しい国造りに挑んでいきます。」

ナレ「また、国連総会から帰国後来月 1 日に行う見通しの内閣改造、党役員人事については。」

安倍総理「まあ、しっかりとした土台の上に、できるだけ幅広い人材を登用していきたい、と思います。しっかりとした土台の上に、ということでお汲み取りいただきたい、と思います。」

ナレ「土台、という言葉を使った安倍総理、これは安倍政権を中核として支えてきた麻生副総理兼財務大臣や菅官房長官、自民党の二階幹事長の留任を念頭に置いたものと見られます。」

ナレ「一方、石破元幹事長や石破は所属議員の処遇について問われると。」

記者「人事面で適材適所を基準に公平に処遇するお考えはありますか？」

安倍総理「適材適所であります。」

スタジオでは総裁選の結果についてと総裁選後の政権課題について以下に朱記したやり取りが繰り返された。

【総裁選】

雨宮塔子「自民党総裁選、当初の予想通り安倍さんが三選されましたが、星さん、石破さんが事前の予想より大きく票を伸ばして善戦ですよ。」

星浩「そうですね、石破さんっていうのは 20 人の小派閥のトップですからその割には相当頑張ったなっていう評価が出ているようですね。まああの選挙期間中に自民党議員からこんな話を聞いたんですね。地元に戻ると意外と石破さん支持だっている議員が多いよ、っていう話なんですね。とりわけその地方ではアベノミクスの効果がなかなか浸透していないということ、それから安倍さんのほうが非常に優勢だったものですからね、その安倍さんたちおごりがあるんじゃないかっていうような議員がいたりして、そのへんがその議員票の石破さんの健闘ぶりにつながっているんだと思いますね。」

雨宮塔子「それからですね、今日になって小泉さんが石破さんの支持を表明しましたが、その小泉さんの支持、影響はあったのでしょうか。」

星浩「おそらく、小泉さんの周りの数人はですね、その石破さんの 73 票の中に入っているんだと思います。それから小泉さんという人は、お父さんもそうだったんですけど国会議員、永田町の流れより国民の動きに非常に敏感なので、国民の反応というのを睨んでああいいう投票行動をしたんじゃないかな、という気がしますね。」

雨宮塔子「党内では、石破さんを冷遇できないという声もあるようですが、本当にこれだけ善戦したのですから、できないですよ。」

星浩「なかなかね、これは難しいことで例えば石破さんを党の三役とか主要閣僚に登用しようという話がもしあるとしてもですね、この前の、この総裁選挙で安倍さんと石破さん、例えば憲法問題で相当その隔たりがあるということがわかったわけですね。そうすると登用しますからといって石破さんはいはいって言って入るとすると、なんだ石破さんは憲法問題の信念を捨てるのかということになって次を目指す石破さんからするとマイナスですので、石破さんはむしろここは入らないで、自重していたほうがいいと、いうことでおそらく石破さんの本音を探ると来年末の参議院選挙に向けて、もし政局に波乱があるようで、自民党が苦戦するようであればその時にチャンスがあるんじゃないかということのを睨んでこれから少しずつ動き始めるんじゃないか、という気がしますね。」

【政権課題】

雨宮塔子「続いては三選を果たした安倍総理を待ち受ける課題についてです。」

安倍総理「週明けから外交も早速始動致します。国連総会に出席するために、ニューヨークに向かいます。トランプ大統領との日米首脳会談も行う予定です。」

雨宮塔子「来週には日米首脳会談を控える安倍総理、会見ではこれからの三年間について方針を示しました。」

安倍総理「すべての世代が安心できる社会保障改革、戦後日本外交の総決算、そして制定以来はじめての憲法改正。」

雨宮塔子「果たして、実現はできるのか、安倍総理に待ち受ける課題を星キャスターが解説します。」

雨宮塔子「安倍総理には早速試練が待ち受けているようです。駒田さん。」

駒田健吾「こちらご覧ください、まず来週にはですね、星さん、早速ニューヨークで行われる予定の日米首脳会談なんですね。」

星浩「まあ、安倍さんはね、これまでトランプ大統領との蜜月をアピールしてきたわけですけども、今回の首脳会談はちょっと今までと様子が違うと思いますね。トランプさんはやっぱり 11 月の中間選挙を睨んでですね、

やっぱりアピールするために牛肉、自動車、この辺の日本の市場開放を進めろ、と相当強く迫っていますよね。一方、安倍総理の方もこれはまたあとで話すんですが、来年の参議院選挙の農村票を考えますとね、牛肉の市場開放なんかそう簡単に応じられないという状況にありますので、非常に厳しい首脳会談になると思いますね。」

駒田健吾「いきなり試練を迎えたあと、来年なんですけれども1月から通常国会が始まりまして延長がなければ150日、このあと夏に行われる参議院選挙、ここのハードルがちょっと高くなっていますけれども、星さん、これはどういうことでしょう。」

星浩「あと10ヶ月後くらいの参議院選挙なんですけれども、これは私はその、最近では珍しい政治決戦になると思います。それというのもですね、これは自民党の選挙の担当者も行っているんですが、3つ自民党にとって悪い要因が重なるんですね、まず1つはですね6年前の参議院選挙の時に安倍さんがその再登場をして非常に勢いが強かった、ライバルは非常に混乱続きの民主党で安倍さんがその時の選挙で圧勝をしてですね、その人達が今度改選を迎えますので、どうしても守りの選挙を強いられるというのが一つ、それからこれは12年に一回あるんですけれども4月に統一地方選挙があつて6月ないしは7月に参議院選挙という都市なんですね。これはその地方選挙がありますと、多くは自民党の議員が多いんですけれども、自民党の議員は自分の選挙が終わったら一安心と、その後の参議院選挙はあまり手伝わない、というジクスがありまして、この12年に一度の、これいのしし年なんですけれどもね、いのしし年の参議院選挙は自民党が苦戦というジクスがありまして、まさにそれにぶち当たるんですね。で、3つ目はですね、6年前の参議院選挙はですね、共産党がだいたいいろいろな選挙区で独自候補を擁立していたんですけれども、どうやら今度は共産党は、その野党の統一候補に乗りそうだ、というようなことがあつて、野党が少しずつ結集してくるんじゃないかという動きがあるんですね。」

駒田健吾「まあその三重苦ですよ。」

星浩「まあそうですね。ということで野党側も参議院選挙を睨んで、来年の1月からの通常国会では相当厳しく政権側を攻め立てるといふことになると思いますので、今年、これからの日米首脳会談をはじめ、来年の通常国会、そして参議院選挙と安倍さんちょっと非常に茨の道という感じですよ。」

駒田健吾「まだまだ安倍さん、外交では北朝鮮、ロシア、中国どうするのかという問題もありますよね。」

星浩「そのへんも例えば北朝鮮、どんどん米朝の話し合いが進んで日本がまた蚊帳の外になるんじゃないかっていう懸念もでていますよね。」

駒田健吾「まさに今月の末には沖縄の知事選挙がありますし、内憂外患といった。安倍総理政権運営の難しい舵取り迫られているということですね。」

星浩「そういうことですね。」

選挙結果を承けての報道であったが、この報じ方についても他の放送日との比較が必要であるとする。

・文科省不祥事：結論→特に問題なし

政府関係者による文科省の戸谷一夫事務次官は今日までに自認の意向を固め、明日の閣議で了承される見通しだということ、関係者によると一連の汚職事件で逮捕起訴された元会社役員は文科省の局長級を含めた複数の幹部に飲食の接待を繰り返していたが戸谷次官も飲食接待の場に同席していて東京地検特捜部は戸谷時間の執務室を捜索していましたが、文科省は明日、一連の問題に関する戸谷次官らの処分を発表する予定であること、文科省の事務次官を巡っては戸谷次官の前任の前川喜平氏も天下り問題を受けて辞任しており事務方トッ

プが2代続けて不祥事で辞任することとなった、とのことが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は67秒で、放送法上の問題は特に見られなかった。

・南北朝鮮：結論→特に問題なし

南北首脳会談からの帰国後の会見でムン大統領が金党委員長の非核化の意思を改めて強調し、共同宣言に盛り込まなかった内容があるとして25日のトランプ大統領との会談で伝達する、と述べたことが報じられた他、トランプ大統領が「北朝鮮と韓国からとてもいいニュースが届いた、彼らは首脳会談を行い、いくつかの素晴らしい回答があった。」と評価したことや、ポンペオ国務長官も成功を祝福するとの声明を発表し、来週の国連総会に合わせ北朝鮮のリヨンホ外相との会談を打診したと明かしたことが伝えられた。

また有識者の見解として北朝鮮問題に詳しい明海大学の小谷哲男准教授の「隠された濃縮ウランの生成施設、これについても一切言及がありませんでしたので、そういう点ではやはり、アメリカが求めていたものではなかった、と言えると思います。」「トランプ大統領の側近たちが、昨日の南北合意が非核化につながるという風に考えている人は、おそらく誰もいないと思います、トランプ大統領の面子を潰さない形でしかしながら北朝鮮に対しては引き続き非核化に向けた高い要求を続けていく、と。」という指摘が紹介されていた。

なお、スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返された。

雨宮塔子「首脳会談の成果については評価が分かれるというようですが日本はどう対応していけばよいでしょうか。」

星浩「南北の融和が進んでいきますと、例えば北朝鮮の中距離ミサイルの脅威を一番受けるのは日本なんですね、そういう意味では日本は北朝鮮の脅威についてきちんと拉致問題も含めて発信していく必要性がますます出てきているんですね、で、今まで日本側は日本政府は非公式な接触を続けている、安倍総理の側近の北村内閣情報官が北朝鮮側と接触してきたりしているんですけども、そろそろ、これを公式な交渉、つまり外務大臣同士とか、局長同士とかが交渉して、きちんと日朝首脳会談につなげていくという交渉をしていく必要性がますます出てきたので、そのタイミングをそろそろ安倍総理も図る必要があると思いますね。」

雨宮塔子「今後の対応に注目ですね。」

星浩「そうですね。」

このトピックについて当てられた時間は265秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・杉田論文：結論→放送法上は特に問題なし

同性愛者などの性的マイノリティ LGBT を巡って、子どもを作らない、つまり生産性がない、などと新潮45で持論を展開した自民党の杉田水脈衆議院議員に対して批判が高まったことを受け、新潮45が新たに杉田氏を擁護する特集記事を出版したことが報じられ、中にはLGBTと痴漢を同列に扱う論文もあり、「痴漢症候群の男の困苦こそ極めて根深かろう。」「彼らの触る権利を社会は保障すべきでないのか。」という一部が取り上げられていた。また、こうした記事の掲載に新潮社と関係の深い作家らも批判の声を上げており、平野啓一郎氏の「どうしてあんな低劣な差別に加担するのか。わからない。」やロバート・キャンベル氏の「低劣な偏見と分かってそれでも売り物にしていこうという出版に、活路はないはずだ。」というツイートが紹介されたほか、こうした投稿を新潮社の公式ツイッターの一つである新潮社出版文芸が自ら転載する動きへと発展していること、内部からの

異議申し立てとも取れる異例の騒動に対し岩波文庫や河出書房などの同業者にも連帯する動きが広がっていること、番組の取材に対し新潮社は特集記事の企画意図について紙面の内容が全てとしていることが報じられた。このトピックについて当てられた時間は 201 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・北海道地震と電力：結論→特に問題なし

北海道で最大震度 7 を観測した地震から 2 週間、一時、全面的な運転停止に陥り、大規模停電の引き金となったとされる苫東厚真発電所の内部が今日公開されたこと、地震直後に火災が発生した四号機のタービン、その外側には焦げたような跡があり現在は通常の 1000 分の 1 程度の速度でタービンを回転させ点検作業が行われているということ、更に建物の外でも液状化により陥没している様子が見られたことが報じられた。また、北電は苫東厚真発電所の全面復旧は 11 月以降になるとの見通しを示していること、気象庁は今後震度 5 弱程度の地震が発生する可能性について地震発生当初に比べておよそ 10 分の 1 に低下したと見ている一方で地震が発生する前と比較すると 100 倍を上回っているとして引き続き注意を呼びかけているとのことが伝えられた。

このトピックについて当てられた時間は 97 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・イギリスと EU：結論→特に問題なし

英国の EU ヨーロッパ連合離脱をめぐり、EU の非公式首脳会議が開かれこれまで 10 月としてきた離脱交渉の合意期限が 11 月中旬まで先送りされることとなったとのこと、特に北アイルランドとアイルランドの国境管理や通商関係で EU 側とイギリスの溝が大きく、双方が合意しないまま離脱を迎える懸念が高まっているとのことが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は 27 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・自民党総裁選

VTR 中では「更に、議員表と地方票の乖離も浮き彫りに。石破氏は国会議員票では 2 割弱の得票でしたが、地方票では 45% 近くの票を獲得。地元鳥取など 10 県で安倍総理の票を上回りました。」というナレーションとともに「石破氏が上回った県、山形県、群馬県、茨城県、富山県、三重県、鳥取県、島根県、徳島県、高知県、宮崎県」と画面の表示で伝えられていたこと、雨宮キャスターの「自民党総裁選、当初の予想通り安倍さんが三選されましたが、星さん、石破さんが事前の予想より大きく票を伸ばして善戦ですよ。」や星キャスターの「石破さんっていうのは 20 人の小派閥のトップですからその割には相当頑張ったなっていう評価が出ているようですね。」まああの選挙期間中に自民党議員からこんな話を聞いたんですね。地元に戻ると意外と石破さん支持だっという党员が多いよ、っていう話なんですね。とりわけその地方ではアベノミクスの効果がなかなか浸透していないということ、それから安倍さんのほうが非常に優勢だったもんですからね、その安倍さんたちおごりがある

んじゃないかっていうような党员がいたりして、そのへんがその党员票の石破さんの健闘ぶりにつながっているんだと思いますね。」というコメントに代表されるように、報じ方としては総じて石破氏の健闘という報道であった。

この結果が石破氏にとって健闘といえるものなのか、大敗というものなのかという評価は分かれるところではあると思うが、石破支持が安倍氏を上回った県として「山形県、群馬県、茨城県、富山県、三重県、鳥取県、島根県、徳島県、高知県、宮崎県」があげられていたが、これらの県の特徴や共通点としてなにが挙げられるのか、ということや地方票と党员票の乖離はなぜ起きたのか、ということへの言及がなかったのは残念だった。

また、報道中では石破氏のこれまでの総裁選での戦績については触れられていなかったが、過去の戦績と比べて今回はどうだったのか、という視点を排除して「健闘だった」と評価する姿勢には違和感を覚えた。むしろ、2012年総裁選では地方票では安倍氏を上回っていたのに、今回では地方票でも安倍氏に負けているという点に着目すれば、健闘とは言えないという評価も成り立ちうるだろう。

・南北朝鮮問題

星キャスターが「今まで日本側は日本政府は非公式な接触を続けている、安倍総理の側近の北村内閣情報官が北朝鮮側と接触してきたりしているんですけども、そろそろ、これを公式な交渉、つまり外務大臣同士とか、局長同士とかが交渉して、きちんと日朝首脳会談につなげていくという交渉をしていく必要がますます出てきたので、そのタイミングをそろそろ安倍総理も図る必要があると思いますね。」とコメントしていたが、事務レベルでの事前交渉が効果を発揮するのはボトムアップ型の意思決定がなされる組織であって、トップダウン型の意思決定が重視される組織を相手取る際に、そうした事前交渉というのは、情報収集以上の意味を持たないのではないだろうか。

・杉田論文

杉田論文やそれを擁護したとされる特集についてよりも、その後の新潮社出版文芸の Twitter の動きやそれに同調する出版各社の動きに違和感を覚えた。新潮社以外の出版社についてはそれが会社としての見解であると捉えてもよいのかもしれないが、少なくとも新潮社については、自社の一部門である「新潮 45」の問題に対して同じく新潮社の部門である出版文芸が公式のアカウントを使ってネット上でおおっぴらに批判するという、その行動自体が奇妙に見えた。

他の業界でも、一つの会社の中に様々な事業部門を持っているということはあるが、ある事業部門の起こした問題に対して、別の事業部門が公式のアカウントなどを使って勝手連的に批判などを公表するということがあり得るのだろうか。普通は事業部レベルではなく全社的な公式アカウントや広報部門などが対応する問題なのではないだろうか。そのように考えた際に、新潮社という会社のコーポレートガバナンスというのは一体どうなっているのか大変疑問に思えた。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年9月21日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙		
検証テーマ：杉田論文、自民党総裁選、文科省不祥事、南北朝鮮、両陛下の被災地訪問		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杉田論文 ・自民党総裁選 ・【追跡】出生前診断 ・文科省不祥事 ・東京で宅配食品を盗んだ女性を逮捕 ・南北朝鮮 ・23Today 杉田論文 関空ターミナル全面再開 両陛下の被災地訪問 東京町田市の高齢者住宅で女性殺害 ・天気予報 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杉田論文：結論→やや問題あり <p>杉田議員の主張を養護する特集を組んだ、新潮45の最新号について今日、発行元の新潮社が社長名で「あまりに常識を逸脱した偏見と認識不足に満ちた表現が見受けられました、弊社は今後とも差別的な表現には十分に配慮する所存です。」というコメントを発表したこと、そんなにおかしいか杉田水脈論文と題した特集には七人が寄稿中にはLGBTと痴漢を同列に扱うかのような文章もあったこと、「痴漢症候群の男の困苦こそ、極めて根深かろう、彼らの触る権利を社会は保証するべきではないのか。」という文章の一部が取り上げられていた。</p> <p>また反響は大きく、都内の書店である金松堂書店社長の西家嗣雄氏の「取り扱いが多くて売り切れちゃいました、売り切れるというのはそんなにはないです。」というコメントや、こうした特集記事に新潮社と関係が深い作家の平野啓一郎氏「どうしてあんな低劣な差別に加担するのか。わからない。」のTwitterでの投稿や新潮社の公式ツイッターの一つ新潮社出版部文芸もこうした批判的な投稿を転載するなど内部からの異議申し立てとも取れる動きも起きていたこと、社長による異例なコメントに新潮社の社員の「あの、正直なところびっくりした、やはり社長としても正面から受け止めているんだなという感想を持ちました。」「肅々とやっぱり批判はきちんとちゃんとした批判と受け止めてまあ向き合っていくということだと思います、やっぱり自分たちがきちんと検証することが大事だと思っていますのでそういう方向に進んだらいいなと思います。」という反応や別の社員は「何も分かっていないに等しい、その場を収めようとしたに過ぎない」、と述べていたとのことが伝えられた。</p> <p>また出版業界に詳しい篠田博之（月刊「創」編集長）氏の「社長がそれを認めたというのはすごく大きいし、業界の人みんながホッとしたと思いますね。日本の思想界ってやや右に軸足を移しててそっちにこうやや新し</p>		

いマーケットができつつあるんです、で新潮 45 も部数相当苦戦していますから、多分、マーケットリサーチをやった上でそこが行けると思ったんだと思いますね。で 10 月号が売れたのも确实なんです、話題になったから、それがそれに対する正当な評価につながるかっていうと、そうは甘くないですよ。」という発言が取り上げられた。

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

雨宮塔子「新潮社の社長が雑誌の内容についてコメントする、星さん、異例の対応ですね。」

星浩「そうですね、ただ雑誌のどの部分が問題だったのかっていうのははっきりしていませんし、それから杉田論文で傷ついた人がいるわけですよ、その人への言及もなかったということでやはりその記者会見などではっきりさせるべきだと思いますが、今回はね、その新潮社の中からも問題だという意見がでてきたという点では健全な部分も見せたと思いますけどね。」

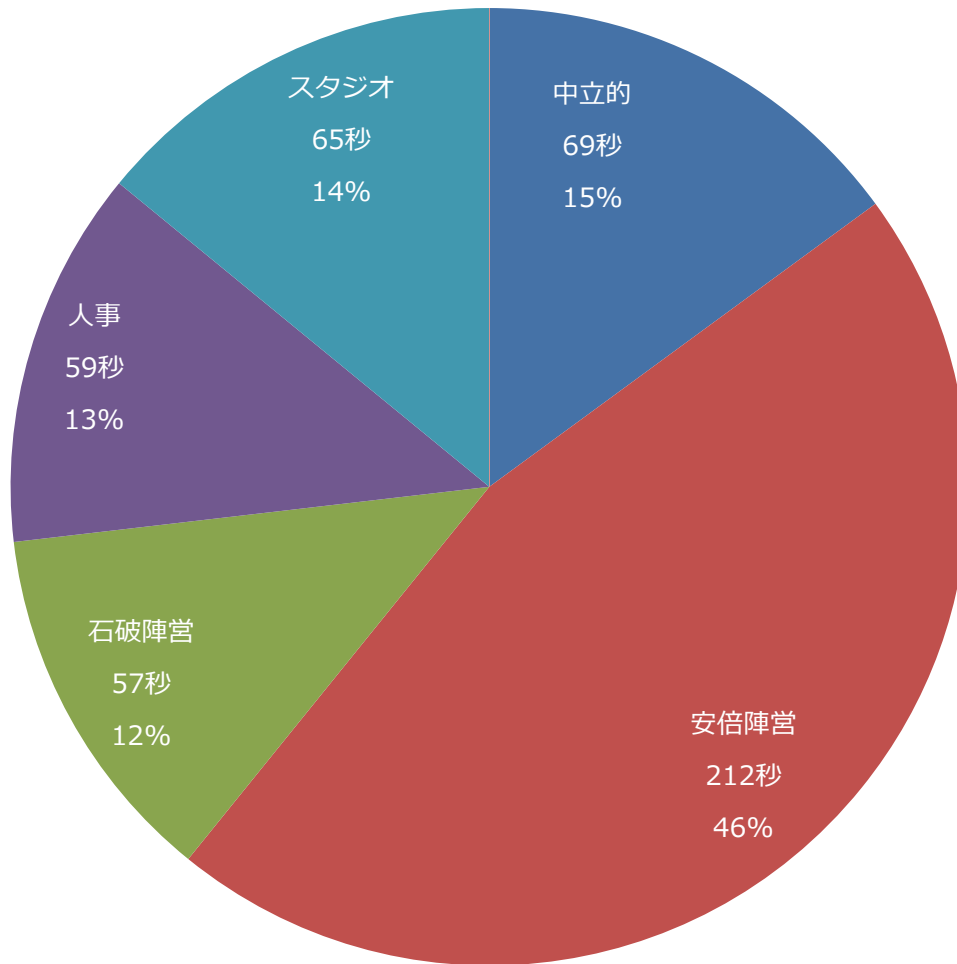
このトピックに当てられた時間は 260 秒だった。

スタジオで星キャスターは「今回はね、その新潮社の中からも問題だという意見がでてきたという点では健全な部分も見せたと思います」と述べていたが、普通は社内で問題だという意見が出るにしても、それは社内の意思決定プロセスにおいて出てくるあるいは内部通報などででてきて、それがどう反映されるのかという問題ではなかろうか。今回の騒動で異例なのは、社内の一部門が他の部門を公式アカウントで批判を行い、それが新潮社の全社的な対応に影響を与えている、という点であり、コーポレート・ガバナンスという観点からは非常に問題のある経緯をたどっていたといえるが、こうした点については全く言及がなく放送法第四条一項四号「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」という点ではいささか不十分であると言える。また、今回の新潮社出版部文芸の Twitter アカウントの運用をメディアはどのように法事、どのように評価したのか、という点については、他の業界の情報発信やコーポレート・ガバナンスがトピックに上がった際に報じ方の一つの基準になりうるだろうから、記憶にとどめておくべきだろう。

・自民党総裁選：結論→特に問題なし

昨日の総裁選直前に東京都内のホテルで行われた安倍陣営の出陣式に出席した議員に振る舞われたカツカレーを食べた議員の人数と安倍総理が獲得した票の数が合わないということで党内がちょっとざわついているとのことや、総裁選後の人事について取り上げられていた。

このトピックでは中立的な報じ方、安倍陣営について、石破陣営について、人事について、スタジオでのやり取りという 5 つの場面に大別された。このトピックについて当てられた時間は秒で、それぞれのシーンの時間配分及び比率は以下の通りであった。



安倍陣営については以下に朱記したシーンがVTRで取り上げられていた。

【シーン1、閣僚の受け止め方】

ナレ「一夜明けて閣僚たちの受け止めは様々です。」

記者「石破さんが善戦することによって、石破さんの政策っていうのを安倍政権で取り入れる可能性っていうのは。」

麻生太郎財務相「善戦なんて思ったことはないね、俺は。はじめから予想通りだったよ。それによって、特にどうのこうの影響してくるとは思いません。」

ナレ「安倍総理が議員票に比べ、党員票が少なく、ギャップがあった点については。」

麻生太郎財務相「議員のほうがよく見ているからね、本人を。」

記者「党員票を軽視されているようにも聞こえるんですが。」

麻生太郎財務相「常識的に言ってそばにいる人のほうがよく見えているんじゃないの、という話を率直にしてい

るだけですけれどね、軽視しているつもりは全くありませんよ。」

ナレ「安倍総理の側近は、高アピールしました。」

世耕弘成経産相「私がおっとも受け止めていることは、私の地元和歌山県が、山口県に次いで非常に高い得票率を安倍総理、安倍総裁に対して得られたということでありました。」

【シーン2、カツカレー事件】

ナレ「こうした中、永田町ではある事件が話題になっています。」

甘利明（自民党元経済再生相「本当にありがとうございました。まあ、カレーライス事件はありましたけれど。」

ナレ「カレーライス、事件？」

ナレ「問題の舞台は安倍総理の陣営が昨日、ホテルニューオータニで開いた出陣式。ゲン担ぎに出された高級カツカレーのお値段はホテル側によると 3800 円でした。参加した議員のブログには。」

大西宏幸議員ブログ（音声「カツカレーの数を投票数が下回るという永田町怪奇現象が勃発した。」

ナレ「カツカレーを食べた議員は 333 人、ところが安倍総理が得た議員票は 329 票。4 人がカツカレーを食べたのに安倍総理に投票していなかったことになるのです。安倍陣営の関係者によると四人の打ち二人は自民党以外の議員だったそうですが、残る二人の議員んち雨亭は。」

安倍陣営関係者「少なくとも二人の食い逃げがいるということ、来年の改選組の参院議員はかなり悩んだと思うよ。」

ナレ「ちなみに石破陣営の出陣式もカツカレー。自民党の食堂から取り寄せたもので一皿 1200 円です。食べた国会議員は 43 人。安倍陣営とは逆に得票数はこれより多く 73 票でした。出陣式にはでられないが石破氏に票を投じる。そんな隠れ石破氏時の議員が多かったことになりす。食い逃げしたのは誰か。安倍陣営では造反者探しも始まっているとされます。先ほど紹介した大西議員のブログには。」

大西宏幸議員ブログ（音声「#ユダは #誰だ」

石破陣営については国会議員に挨拶回りをする石破茂氏が「敗者とは思えない笑顔（ナレーション評）」で「自分を売り込むのがこんなにしんどいことだとは思わなかった。」というコメントしたシーンと選挙期間中に安倍総理の応援団から圧力をかけられたと明かした齋藤健農水相が「私は、あの、敗れた側の人間ですので、コメントはありません。全て、負け惜しみになってしまいますから。」とコメントしたシーンが取り上げられていた。

また、カツカレー事件に関して石破陣営議員から「カツカレー食ったらうちに絶対入れろ、なんて横暴だよ。国会議員は一個人、それを上から押さえつけようなんて、謙虚って言葉を知らないのかね。」という声が上がっているとのことが伝えられた。

自民党内の今後の関心である内閣改造と党役員人事については、安倍総理の「しっかりと土台の上でできるだけ幅広い人材を登用していきたい。」というコメントが取り上げられ、安倍総理は来月 1 日にも人事に着手する予定ですが、政権の土台となってきた麻生副総理兼財務大臣ら三人は留任の見通しで、河野外務大臣や茂木経済再生担当大臣も留任の見方が強まっているとのことが伝えられた。また一方で石破派幹部から「石破さんを重用することで自民党が強くなる。我々は自民党のために戦ったんだ。」という声が上がっていることも伝えられた。

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

雨宮塔子「カツカレーを食べたのに、投票しなかった議員がいる、まあ造反者探しが始まっているというのも驚

きですが星さん、総裁選というのはこういうことがよくあるんですか。」

星浩「はっはっはう、まあね、長い総裁選の歴史からするとカツカレーの食い逃げは可愛いものかもしれませんね。昔はね、現金もらったけど裏切ったという話を聞いたこともありますね。」

駒田健吾「まさに、局面によっては義理も人情もないというのが政界だと思いますけれど、では今後自党内では閣僚人事ですとか党の役員人事、こちらに関心が移っていると思いますが。」

星浩「まあ留任する人もいるので、まあ新しく入る人が15人以下くらいでしょうね。ところが私が数えた感じは大体60人ぐらいは入りたいな、入れるんじゃないかと期待している人がいますよね。国会議員という人はどっちかという自己評価が高い人が多いものですから期待はどんどん膨らんでいるわけです、で、期待がダメになると失望に変わって、失望が今度は安倍政権への怒りに変わるといえることがありますので、実は一番気をもんでいるとか心配して頭を痛めているというのは安倍総理自身ではないですかね、今。」

この報道については特に問題は見られなかった。

・文科省：結論→特に問題なし

文部科学省は一連の汚職事件に関連し、戸谷一夫事務次官、高橋道和局長、それに義本博司局長の三人を減給の懲戒処分、一人に訓告をしたとしていること、うち戸谷事務次官と高橋局長は今日付けで辞職したこと、文科省によると戸谷次官は贈賄の罪で起訴された元会社役員らと銀座のクラブなどに行き一人で6万2000円を超える高額な接待を受けましたが、取材に対し違反という認識は持ち合わせていなかったとしていることが、伝えられた。このトピックについて当てられた時間は52秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・南北朝鮮：結論→特に問題なし

北朝鮮の金正恩党委員長の妹である金与正氏が今年4月頃に出産していた可能性が高いこと、これは昨日まで平壤で開かれた南北首脳会談に同行した韓国側の議員に対し北朝鮮の高官が明らかにしたもので、今年4月の首脳会談の際ヨジョン氏は出産した直後だったとしているとのことが伝えられた他、今回の共同宣言に盛り込まれた金正恩党委員長によるソウル訪問について金委員長が「多くの人が行かないでといったが私は行く、必ず行きます」と話したとのことが伝えられた。

このトピックについて当てられた時間は39秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・両陛下の被災地訪問：結論→特に問題なし

天皇皇后両陛下が西日本豪雨の被災地愛媛県西予市と広島県呉市を訪問、仮設住宅で暮らす人々を見舞ったことが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は33秒で、放送法上の問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・自民党総裁選

カツカレー事件について、VTR では石破陣営議員から「カツカレー食ったらうちに絶対入れろ、なんて横暴だよ。国会議員は一個人、それを上から押さえつけようなんて、謙虚って言葉を知らないのかね。」という声が上がっているとのことが伝えられていたが、そもそも「カツカレーを食べたからうちに絶対入れろ」というよりは、そのカツカレーが出陣式において陣営の必勝を期して振る舞われたものであり、それを食べたということは出陣式には来ていたわけで、「出陣式に来るくらいだから入れるのが当然」という話ではないだろうか。むしろ、出陣式に来て、共に陣営の必勝を期しておきながら、対立候補に投票をするだなんて「信義」という言葉を知らないのか、との批判は免れ得ないだろう。カツカレー事件について星キャスターは「はっはっはう、まあね、長い総裁選の歴史からするとカツカレーの食い逃げは可愛いものかもしれませんね。昔はね、現金もらったけど裏切ったという話を聞いたこともありますね。」とコメントしていたが、確かに昔は2つの陣営から現金を受け取る「ニッカ」、3つの陣営から現金を受け取る「サントリー」、様々な陣営から現金を受け取ったものの結局どこに投票したのかわからない「オールドパー」などという言葉もあった。また、総裁選で敗れた陣営が国会の首班指名選挙で対立候補を立てた事例や、野党の提出した内閣不信任案に同調することで解散総選挙に追い込んだ事例もあった。ただ、こうしたことが行われていたのもあくまでも自民党政権は揺るがないということが前提の認識としてあったからであり、幾度かの政権交代を経験した今日においては、造反に対しても以前よりナーバスなものとなるのも無理もないだろう

人事について、星キャスターの「国会議員という人はどっちかという自己評価が高い人が多いものですから期待はどんどん膨らんでいるわけです」というコメントは全くその通りだと感じた。そもそも自己評価が高くなければ自分が他人からの一定数の票を集めることが可能だなどとは考えないだろう。他方で、当選回数を基準に「入閣適齢期」だなどとメディアが安易に表現することは、そうした政治家の期待を過度に煽ることとなり、結果として大臣としての力量を欠いているまま当選回数を重ねてしまった政治家をどこかで大臣として処遇しなければならぬという圧力が強まってしまうが、力量を欠いた政治家がただ当選回数を重ねたからという理由で大臣になってしまっただけは、それは国民にとっても不幸なことであるし、そうした大臣を押し付けられる省庁で働く官僚に対してもとても失礼なことではないだろうか。